MS-14A GELGOOG

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT

1/100 scale MASTER GRADE MS-14A GELGOOG Ver.2.0

ジオン公国軍
汎用モビルスーツ
MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

※写真の完成品は、塗装してあります。

0151918

ジオン公国MS開発史

ザクの汎用性が行き着く先

ゲルググは、ザクに代わるジオン公国軍の新たな主力MS（モビルスーツ）として開発された。一年戦争の期間中に量産されたMSの中で、MS-14A ゲルググは「最高の“完成度”を持つ機体である」と評価されている。

U.C.0079年に勃発した“一年戦争”の末期に実戦投入されたゲルググは、この期間に量産されたMSの内で、最も優秀な機体であると言われている。地球連邦軍に先んじてMSの開発に成功した公国軍が、連邦軍の“RX-78 ガンダム”を超えるべく、その威信を賭けて開発したのがゲルググなのである。この機体は、それまでに蓄積されたMS開発に関連するノウハウの全てを投入し、ビーム兵器の標準装備という新たな難関をクリアしている。生産性をも含めたトータルな意味での“工業製品”としてゲルググを捉えれば、ガンダムのように単機での大気圏突入こそできないものの、実質的には凌駕していたと言っても過言ではない。攻守共にバランスのとれた設計と、ザクを上回る汎用性の高さに加え、オプションの換装も容易で整備性も良好であり、ほぼ無改造で重力下での稼働も可能であった。これほどのスペックと生産性を持ちながら、実戦に投入されたのが戦争末期であったため、戦局に与えた影響は微々たるものだった。また、戦闘の長期化に伴うベテランパイロットの喪失によって、学徒動員兵など練度の低いパイロットを搭乗させざるを得なかったジオン公国の人的資源の不足など、運用面における状況は必ずしも万全なものではなかったため、基本性能ではジムを大きく上回るにも関わらず、大きな戦果を挙げる事はできなかったとされている。無論、当時の情勢を鑑みれば、MSの性能がジオン公国の敗北を覆す要素とはなり難いが、逆に言えば、だからこそ、“優秀なパイロットのもとに適正に配備されていれば……”あるいは“多くのベテランパイロットを喪失していなければ……”と思わせてしまう機体である事は否定できない。「あと一ヶ月配備が早ければ、歴史を塗り替えていただろう」というのは、むしろ、連邦サイドからの評価なのである。

ゲルググの開発・量産は国を上げた“合同事業”であった

ゲルググは、言うまでもなく連邦軍が開発した“ガンダム”を強く意識した機体である。そのため、ビーム兵器の搭載か携行が必須とされた。それを実現するため、公国軍は自国の企業間の垣根を取り払い、軍自らが開発を主導したのであった。

公国軍において、ザクの後継機となる次期主力MSを開発する計画そのものは、一年戦争のかなり早い時期から存在していた。しかし、高度な汎用性の獲得やビーム兵器の開発などが遅れたため、実戦に投入されたのは一年戦争末期となった。実際には、一年戦争勃発以前から戦略上の選択肢として“地球侵攻”が想定されていたため、地球環境などに適応・特化された“局地戦用MS”の開発や、ザクの量産そのものが優先されていた。つまり、“次世代機開発”の優先順位はさほど高くはなく、戦争遂行そのものが優先されていたのである。次期主力MS候補の計画上のコードナンバーはMS-11で、機体の運動性の向上を主眼として検討されており、その設計案に基づいた試作機がテストベッドとしていくつか建造されてもいた。これらの機体は、それなりの予測値をはじき出した上で対MS戦闘を想定していたが、「ガンダム」の出現によって、その予測値は抜本的に見直されることとなった。すなわち、ガンダムの性能は公国軍の想定をはるかに上回っていたのである。そのため、すでに生産が開始されていた機体を除く新型MSの開発計画のいくつかは統廃合され、武装も含めた総合性能の向上が計られることとなった。この時期の混乱もゲルググの開発が遅れた要因のひとつである。公国軍にとって「ガンダム」が脅威であったのは、この機体が持つ圧倒的な機動性と強靭な装甲に加え、南極条約の制約下において最強の兵器であるビーム砲=メガ粒子砲を携行し、戦艦並みの破壊力を併せ持っていたためであった。MSの機動性は、本来的に“足の遅い”戦艦などに対抗するためのものであり、巨大な設備を必要とするビーム砲のMSへの実装=小型化はあくまで目標のひとつに過ぎなかった。公国軍においては、主に冷却機構などの問題からビーム兵器の小型化が難航しており、水陸両用MSが水冷式を採用することでようやく目処が立ったという段階にあった。ところが、連邦軍が開発したMSは、小型高出力のビーム砲=ビーム・ライフルを標準兵装としていた。MSにビーム兵器を持たせる事に成功した連邦軍のアドバンテージは、それほど破格のものだったのである。無論、公国軍もMSへのビーム兵器搭載を懸案としており、戦争中期には水陸両用MSに実装している。また、戦争後期に開発された機体のほとんどは、MSであろうとMA（モビルアーマー）であろうと、なんらかのビーム兵器の搭載か携行を実現している。ある意味でMAは、ビーム兵器を運用するための兵器であったという側面もあるのである。MSとビーム砲の融合は、ジオン公国に於いても喫緊の課題となったのである。かくして公国軍の技術陣は、その矜持として、ビーム砲の実装のみならず、“ガンダムを超える”MSとして“ゲルググ”を完成させなければならなかったのである。

MS-06F

MS-14A ゲルググ

ゲルググは、ザクに代わる新たなスタンダード＝次期主力MSとして誕生した。公国軍が生み出したMSは、ゲルググをもって完成したと言っても過言ではない。

MS-14 ゲルググが一年戦争末期における傑作機であることを否定する人はいないだろう。ゲルググの総合性能は高く評価され、次期主力機選定時に競合したYMS-15 ギャンに大差をつけて採用された。これはゲルググがエネルギーCAPを利用したビーム兵器の小型化に成功していたという事実によるものであると言われている。ギャンは、ビーム・サーベルこそ装備していたものの、ビーム・ライフルは装備しておらず、連邦製MSの対抗兵器としての要件を満たしていないと判断されたのである。当時、次期主力MSに求められていたのは、対MS（白兵戦）能力そのものよりも、対艦戦闘能力であり、重火器の使用が可能なゲルググに軍配が上がったのは自明の事であった。とはいえ、ゲルググとギャンのコンペティションは、MS開発初期のような厳密なものではなく、ゲルググの採用そのものは事前にほぼ確定しており、ある種のセレモニーとして執り行われたに過ぎなかったと言う説もある。

MS-14 ゲルググの開発ベースとなった機体は、MS-06R-2 高機動型ザクや、06系の最終型とされるMS-06R-3などであったが、ゲルググはそれらの開発に従事していた技術者たちを糾合して開発された機体であり、公国軍のMS開発担当官が直接指揮を執って開発に当たっていた。MS-14の基本的なアビオニクスはZEONIC社のものだが、装備されるスラスター類にはZIMMAD社の技術が援用されており、MS用の武装を開発していたMIP社なども、ビーム・ライフル開発の際にMS開発局に編入され、同系統の何機種かの機体をOEM生産している。さらに、各部品の調達の都合によって、各メーカーは独自のライセンス生産も行うようになっていった。つまり、メーカー間で生産技術の均等化が進んだ結果、得意分野ごとに生産をシェアできるようになっていたのである。ゲルググの設計自体、各部位を独立した構造としていたため、生産をブロックごとに行う事が可能だった。だからこそ、生産可能なユニットは先行して供給することが可能となり、短期間で本格的な量産にこぎ着けるまでに至ったのである。また、この機体の完成は、公国軍のMS開発コンセプトの転換をも体現している。ゲルググはザクⅡのように汎用性を重視した機体ではあったが、ビーム・ライフルという大火力の兵装を持った事で、実際の運用法がガンダムに近い、より連邦的なものとなっていったのである。特に、同時期に開発されたMS-14C ゲルググキャノンとの連携など、RXシリーズのガンダムとガンキャノンのコンビネーションに酷似した戦術で運用される事が多かったと言われている。

また、ゲルググはザクと同じか、それ以上の汎用性を発揮するよう設計されていたため、最小限のオプションで多様な戦術に対応できた。基本的にはノンオプションで最高水準の性能を発揮するが、腕部と背部には、ある程度規格化されたオプションポートが実装されている。腕部には、地上への投入やコロニー内での機動力向上などを目的とする補助推進ユニットや、砲撃戦に対応したミサイルランチャー、機関砲などが用意されていた。また、膨大な初期加速を必要とする一撃離脱の作戦などに対応するための高機動型バックパックに加え、開発が遅れていたビーム・ライフルの代替武装として、水陸両用MSのビームデバイスを流用したビーム・キャノンパックなど、背部パネルごと換装することができた。例えばザク系の機体では、この程度の変更でも内装部品の交換や煩雑な微調整が必要だったが、ゲルググはほとんど無改造でこれらのオプションを脱着し、その上で十分に稼働することが出来たのである。ちなみに、開発が戦争末期であったにも関わらず、ゲルググには、A、B、C、S以外にもバリエーションが存在する。これは、基本設計として各部パーツやモジュールを分散して生産する事が可能だったためだと言われている。例えば、元々は、ゲルググとのコンペティションで敗れたギャン系の機体生産を見越していた工廠などは、スペック的に併用できるパーツをゲルググの生産に流用するなど、ある程度の技術力と規模さえあれば、それぞれのパーツをベースとして独自の機体に組み替える事さえ可能だったと言われている。また、ゲルググとギャン双方の長所を融合させ、公国軍のMS開発局からMS-17の開発コードを与えられていた機体の開発計画もあり、その機体のための試作品を供給していた工廠もあったと言われている。そのモジュールを組み込んだ上で、一部完成していたMS-17用の生産ラインを流用して建造されたゲルググなども存在するとされている。そして、終戦以降も、それらの開発拠点を接収した連邦軍で、あるいは公国軍残党の手によって、ゲルググの系譜は発展し続けていったのである。

MS開発系譜 ーMSの完成形としてのゲルググー

ゲルググは開発当初から各種のオプション装備が想定されていた。基本的にはノンオプションで最高水準の性能を発揮するが、地上への投入や特殊な任務への対応を考え、高機動型のBタイプやキャノンパックを装備したCタイプなどがバリエーション機として開発段階から想定されていた。後に建造された更に別タイプのものも、慣例的に末尾のナンバーや記号で判別されるようになっていった。Bタイプの機体などは、J.ライデン少佐などが搭乗したことでも知られている。一年戦争末期の傑作機MS-14 ゲルググは、先行量産型の生産に前後して、いわゆるAタイプが83機、Bタイプが67機、Cタイプが15機生産され実戦に参加していたとされる。ただし、これらの数値はいくつかの資料の平均値であり、終戦時、122機分に相当するCタイプの未組み立てパーツが存在すると記録された資料も存在する。特に、ビーム・ライフルの搭載を見送り、分散して作られたパーツをベースとして独自の機体に組み上げた工廠もあったため、開発が戦争末期であったにも関わらず、多くのバリエーションが存在するほか、ジオン残党が保有していた同系機も相当数に上るのである。

MS-06S
（シャア専用ザク）
F型をベースに通信能力や加速性などを中心として各部を機能強化した機体。前線の指揮官を中心に配備された。写真はシャア専用にカスタマイズされた機体である。

MS-06R-1A
（高機動型ザク）
Rタイプの開発は、主力であったFタイプのランドセル、腰スカート、脚部を中心に、全面再設計した機体である。22機が初回生産された。

MS-14S
（シャア専用ゲルググ）
一年戦争末期に実戦投入され、公国軍で初めてビーム・ライフルを標準装備した。シャア専用機は先行量産された25機の内の1機である。

MS-14B
（高機動型ゲルググ）
膨大な初期加速が必要とされる一撃離脱作戦に対応するためのバックパックなどは、背部パネルごと換装できた。

MS-14C
（ゲルググキャノン）
開発の遅れていたビーム・ライフルのかわりにビーム・キャノンパックパックを装備したタイプ。

MS-14A
（量産型ゲルググ）
一年戦争終結までに、各地で仕様の異なるバリエーション機がいくつか存在した、本格量産開始以降のロットの機体である。

MS-06F
（ザクⅡF型）
MS史上屈指の傑作機。機体性能と出力のバランス、豊富なオプション装備など、後の機体開発にも大きな影響を与えた。

MS-06J
（地上用ザク）
F型から地上戦では不要な装備を取り除き、軽量化と稼働時間延長を達成。空冷構造のジェネレーターを搭載している。

MS-06K
（ザク・キャノン）
長距離支援用に開発された砲撃戦用の機体。性能も良好で相当数量産された。著名なエースパイロットも搭乗した。

MS-06M
（ザク・マリンタイプ）
地上侵攻用に開発されていたが、密閉性などに問題があったため、結局水陸両用機は新設計されることになった。

MS-06D
（ザク・デザートタイプ）
アフリカ戦線用に熱帯・砂漠戦仕様で特化された機体。冷却装置が増設された大型のランドセルが特徴。

MS-05
（ザクⅠ）
生産時期によってA型とB型に分類されるほか、後方任務や現地改修機もある。800機以上生産された史上初の量産型MS。

MS-06F
（ザクマインレイヤー）
F型の背部に機雷散布ポッドを搭載した機体。推進剤を兼ねた冷却剤タンク、宇宙機雷投下装置、強化された通信機が装備されている。

MS-06V
（ザクタンク）
前線で使用されていた作業用の機体。ザクの上半身とマゼラ・アタックの車両部分を再利用している。05タイプもあった。

MS-06E
（ザク強行偵察型）
偵察用に特化され、軽量で廃熱量が少ない。ステルス性と加速性能を高め光学センサーや通信能力を強化している。

▮▮▮ 総合性能向上型
局地戦仕様型
特殊仕様型
量産型

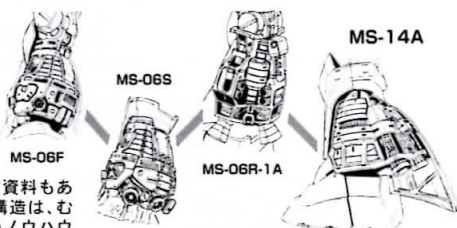
ZEONIC MS-06 Line
Development genealogy

脚部スラスター

MS-06R、すなわち"高機動型ザク"の直系とも言えるゲルググは、R系の機体と同様に、脚部全体を巨大なバーニアスラスターユニットと考えている。また、06R2型の実働データを基にして、更なる高性能化も計られている。ゲルググの脚部に装備されるバーニアスラスターユニットは当初、ZEONIC社製のものがそのまま流用される予定だったが、実際には完成までの間に改良が加えられることとなった。スラスターの総推力の向上のため、腰部スカートアーマーに09R系のZIMMAD社製バーニアの技術採用が決定し、改めて06R3型用のユニットが先行試作機として共同開発されることとなったのである。また、06R3型は、ゲルググの実質的なプロトタイプと目されることもあるが、元々は4機しか建造されなかった06R2型の内の1機を改造したものであるとも言われている。他にも、06RPとされる機体の存在を示す資料もあって、当時の開発事情の混迷ぶりをうかがわせる。実際には、ゲルググのバーニアスラスターの配置や構造は、むしろリック・ドムのものに近いことは一目瞭然である。このことからもゲルググは、公国軍のMS開発のノウハウを総動員して開発された機体だと言うことができるのである。

主な武装の変遷

ビーム兵器の稼働のため、MS-14Aは1440kwもの出力を持つ大型の熱核反応炉を標準的に装備している。これは連邦軍のRXシリーズに搭載されたものをも超える高出力である。このジェネレーターが完成した時点で、公国軍は初めて連邦軍のガンダムを超えたと言う事もできる。このモジュールが完成し、さらには安定供給できる技術力とインフラが整って、初めてゲルググはビーム・ライフルのドライブが可能となったのである。無論、メガ粒子を縮退寸前のままで保持するエネルギーCAP(キャパシター)システムの確立も必要であった事は言うまでもない。公国軍が開発したエネルギーCAPシステムは、連邦系のものと若干アプローチが異なっており、前後してビーム・バズーカなども実用化されている。また、ゲルググが獲得した汎用性には、運用可能な兵装の多彩さももちろん含まれている。機体の生産そのものを各所に分散したことで、ゲルググの生産そのものはある程度担保されたが、それゆえに武装や機体仕様が、ある意味"乱立"する事ともなった。ただし、これは当初より想定済みであったため、ゲルググはビーム・ライフルの運用を標準とする下位互換を確保している。すなわち、既存のMS用の兵装は全て実装可能となっているのである。ビーム・ライフルは、ガンダムが装備するものに勝るとも劣らない性能を持ち、ビーム・サーベルは、"ナギナタ"状のビーム刃をユニットの両端で生成するツインソードエミッターが内蔵されている。無論、一方のみでも稼働もでき、連邦製のものより"太い"ビーム刃も生成できるため、より柔軟で変則的な戦術が展開可能である。他にも、ザク・マシンガンなどの実体弾系火器はもとより、ザクのヒート・ホークやドムのヒート・サーベルのような"焼灼"系の兵装も下位互換が確保されており、そのまま運用する事が可能である。

Beam Naginata
Heat Hawk

⚠ 注　意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

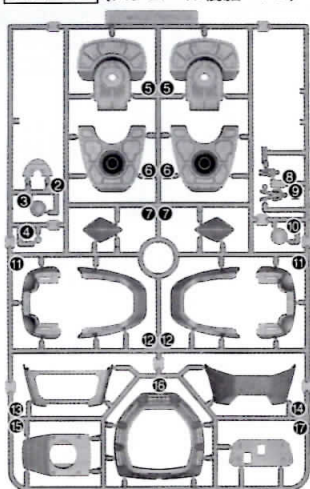
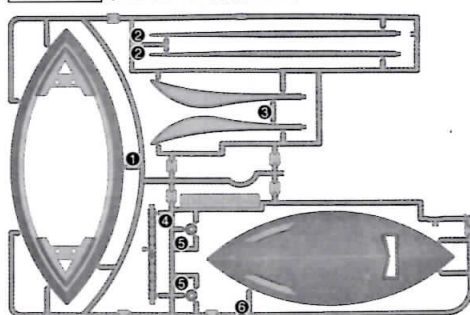
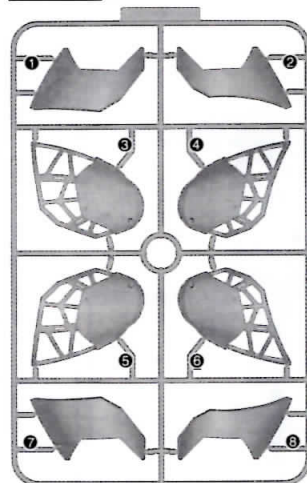
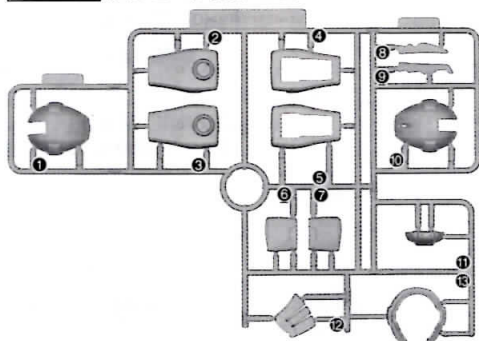
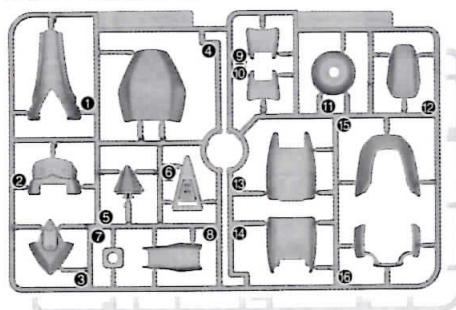
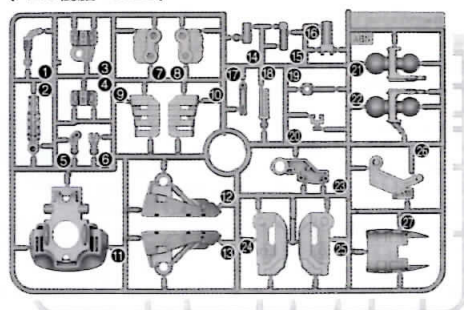
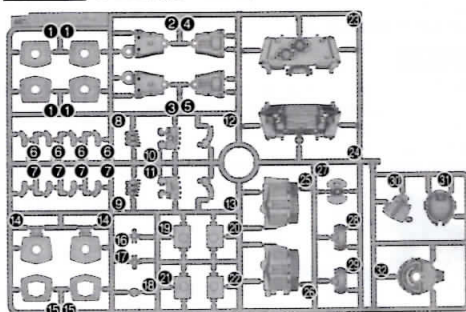
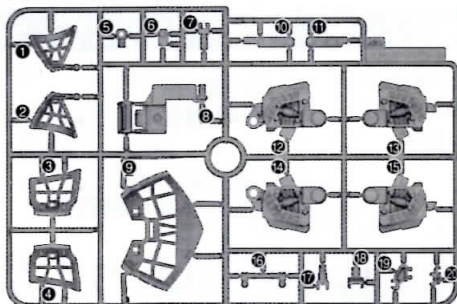
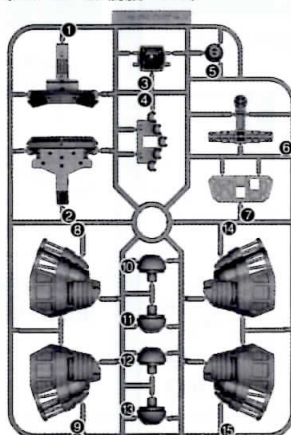
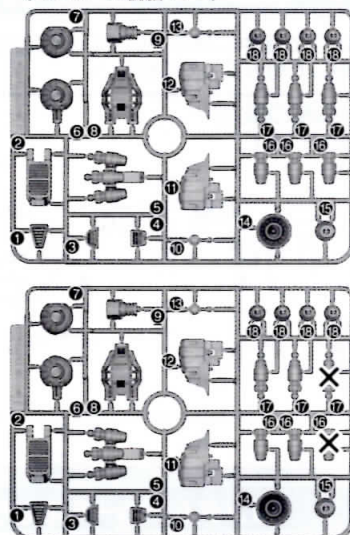
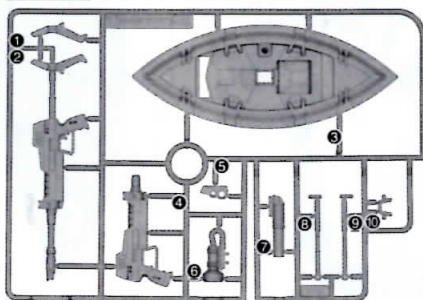
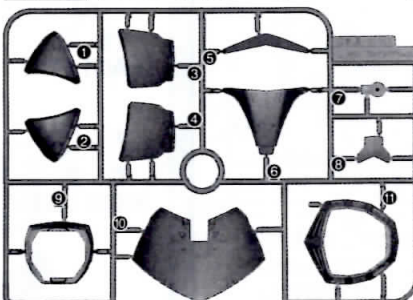
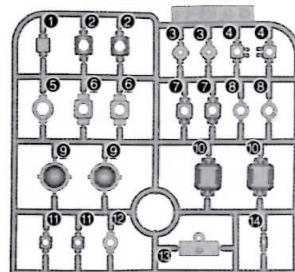
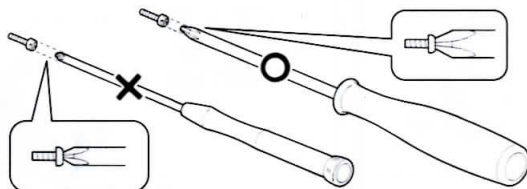
※このキットの組み立てには＋(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

パーツリスト

(✕印は使用しないパーツです。)

Aパーツ (スチロール樹脂：PS)

Bパーツ (スチロール樹脂：PS)

Cパーツ (スチロール樹脂：PS)

Dパーツ (スチロール樹脂：PS)

Eパーツ (×2)
(スチロール樹脂：PS)

Fパーツ (×2)
(ABS樹脂：ABS)

Gパーツ (ABS樹脂：ABS)

Hパーツ （ABS樹脂：ABS）

Iパーツ
（スチロール樹脂：PS）

Jパーツ （×2）
（スチロール樹脂：PS）

Kパーツ （スチロール樹脂：PS）

Lパーツ （スチロール樹脂：PS）

〈PC-201〉
（ポリエチレン：PE）

※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用されますとビスを破損する場合があります。

マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚
ビス…………………………1本

《お買い上げのお客様へ》部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量を はっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー（拡大含む）での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金（為替）を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくはhttp://bandai-hobby.netより▶お客様へ■部品注文「部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」の所をクリックしてください。

■申し込み先　（株）バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12 TEL 054-208-7520

《料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	デカール類	その他
部品代	150円	各40円	各40円
郵送料	200円	80円	120円

・電話受付時間 月～金曜日
（祝日を除く）10時～16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようにご注意ください。

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード　0151918
1/100SCALE MGシリーズ
MS-14A　量産型ゲルググ Ver.2.0

必要な部品の記号·番号·数量をかく

●注文された理由（〇で囲む）（こわした·なくした）

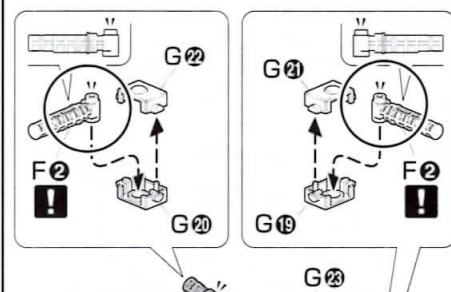
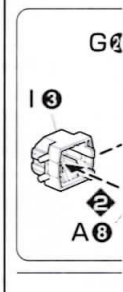
·日中ご連絡可能な電話番号　·年齢
（　-　-　）（　才）

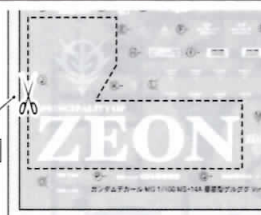
R2001366　'08.04

2008.04/T·ON　※コピー使用可

組み立て前の基本説明

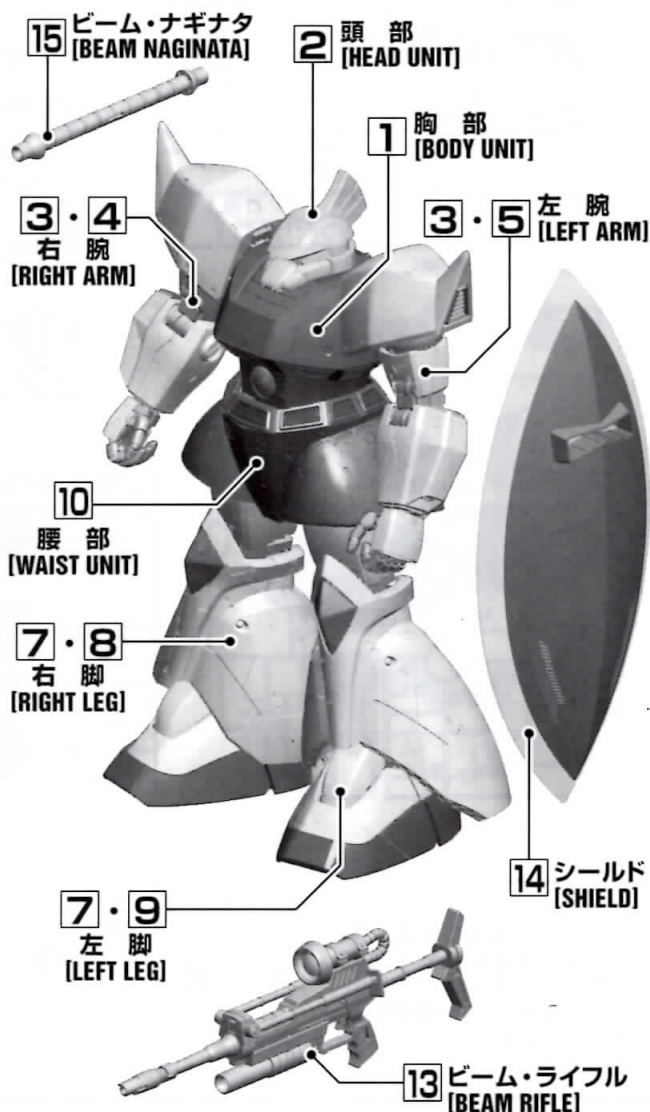
部品の向きに注意してください

※組み立て図中に〃のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

ガンダムデカールの貼りかた

❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

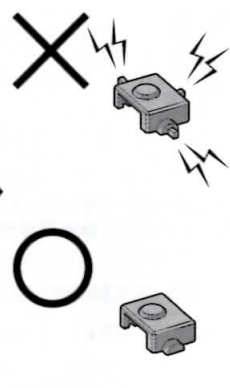
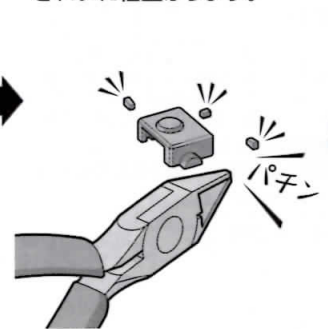
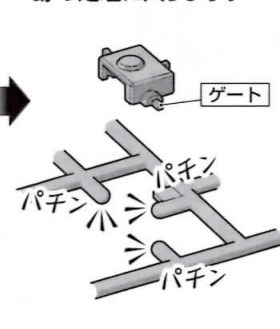
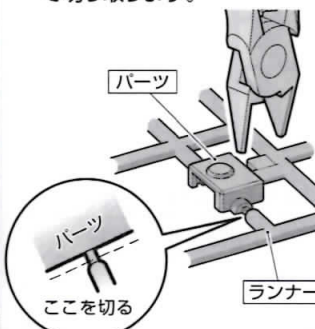
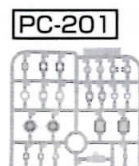
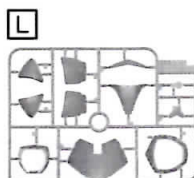
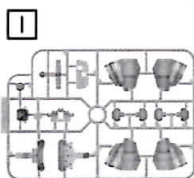
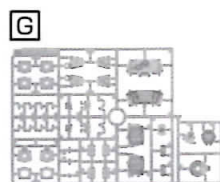
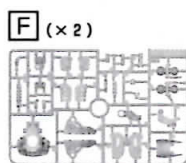
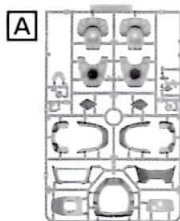
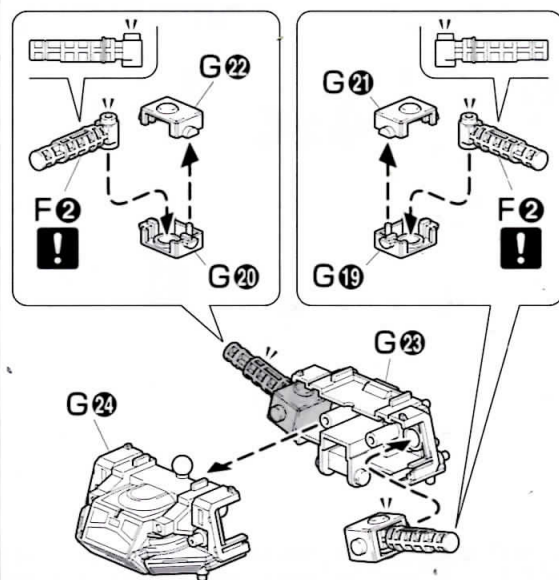
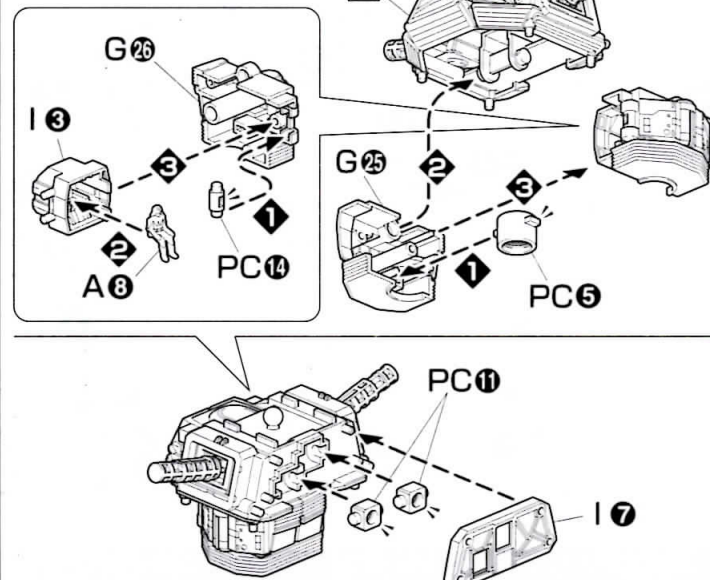
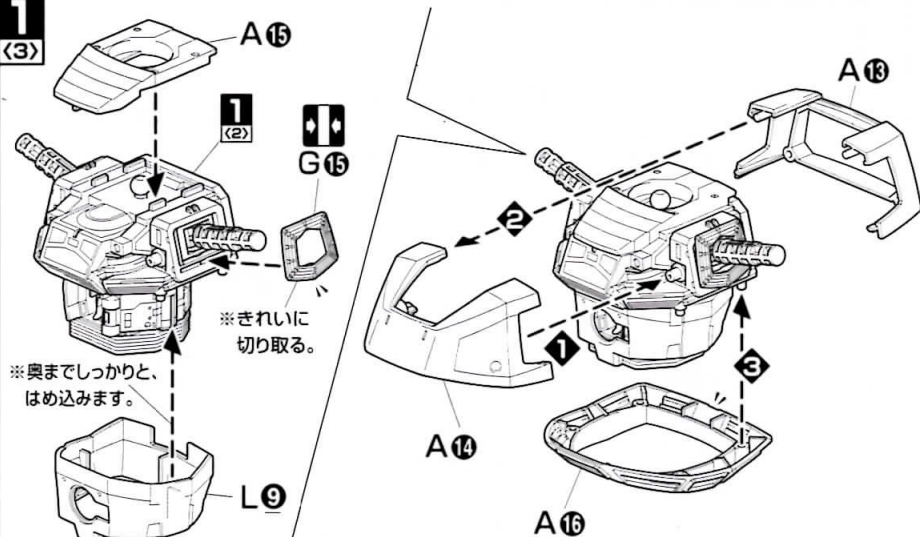
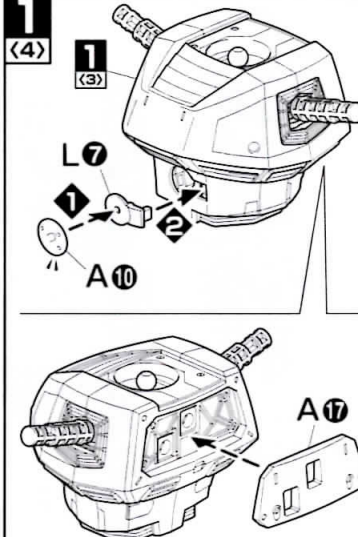
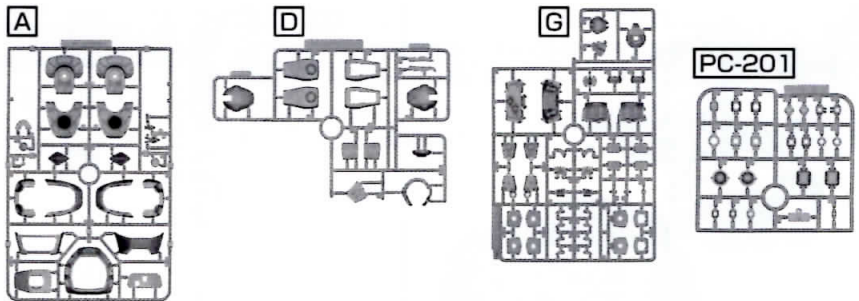
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

パーツの切り取りかた

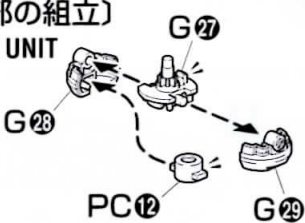
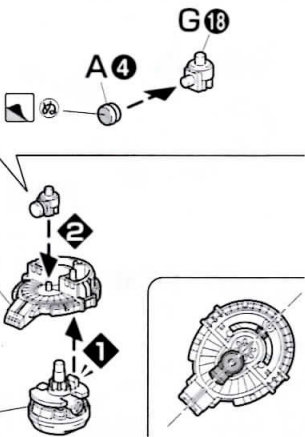
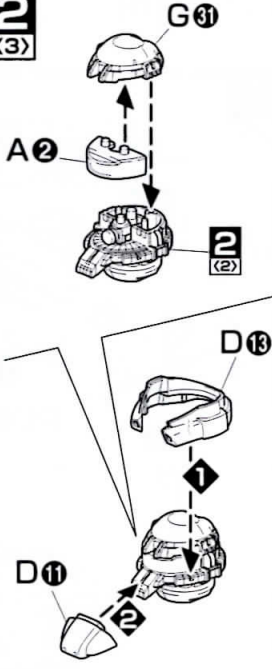
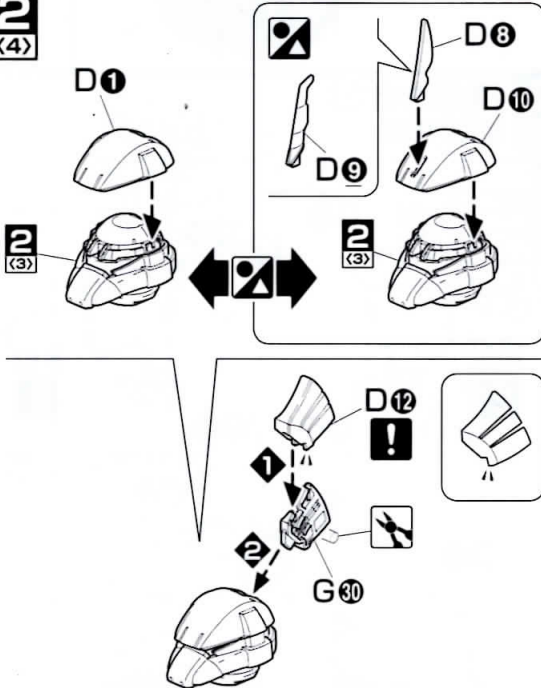
❶まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

❷パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

❸ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

1 BODY UNIT
・組立1で使用するパーツ
A
F (×2)
G
I
L
PC-201
1〔胸部の組立〕
〈1〉 BODY UNIT
G㉒
F❷
G⑳
G㉑
G⑲
G㉓
G㉔
〈2〉
G㉖
I❸
A❽
PC⑭
G㉕
PC❺
PC⑪
I❼
〈3〉
A⑮
G⑮
※きれいに
切り取る。
※奥までしっかりと、
はめ込みます。
L❾
A⑬
A⑭
A⑯
〈4〉
L❼
A❿
A⑰
※組立図中の
記号説明
両側に同じパーツを
取り付ける
向きに注意して
組み立てる

2 HEAD UNIT

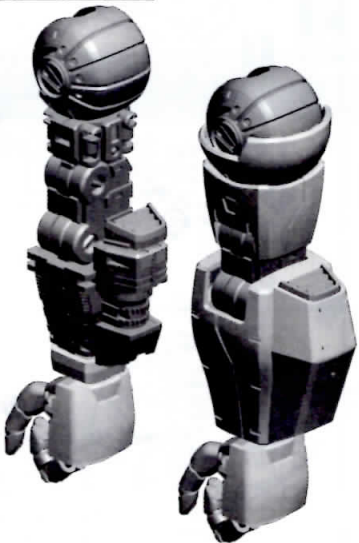
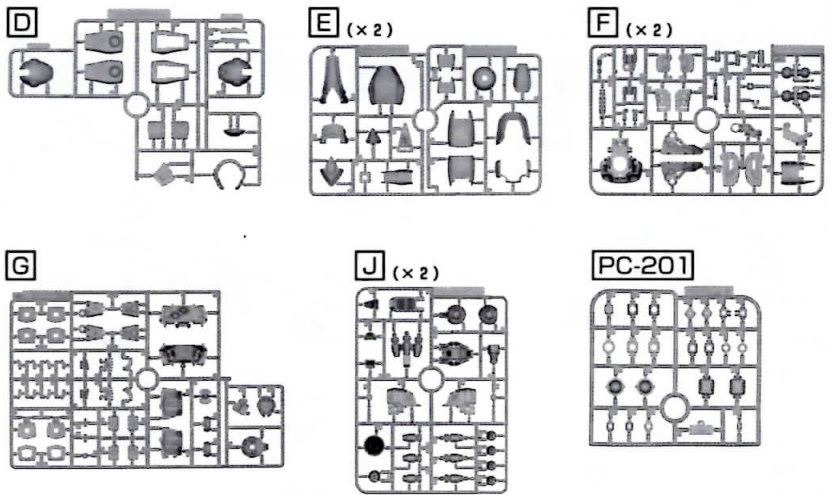
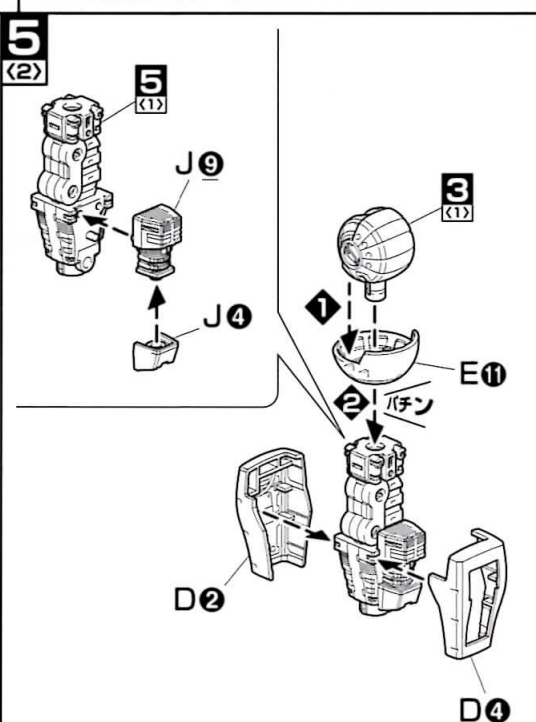
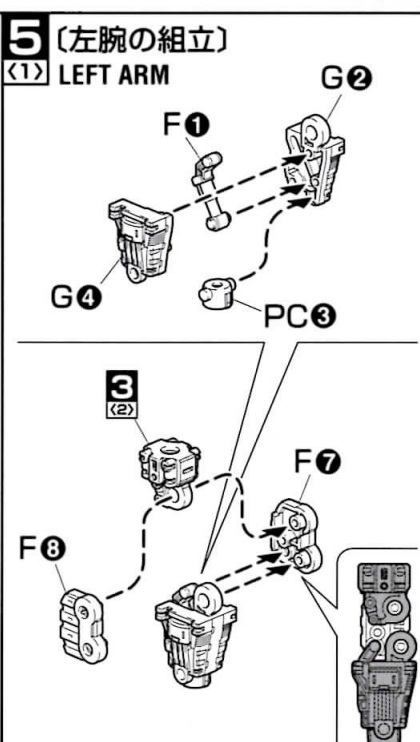
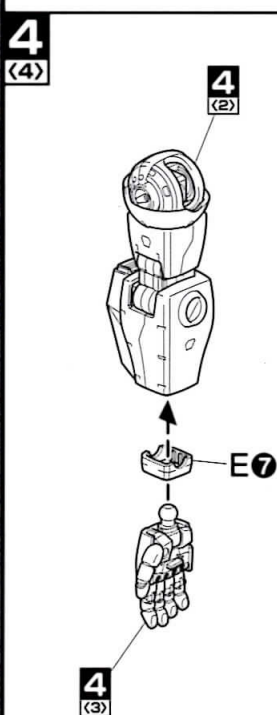
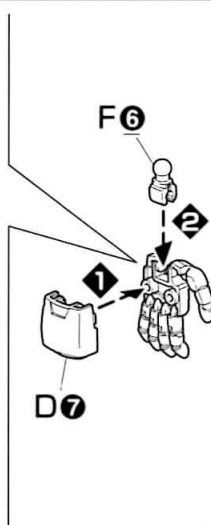
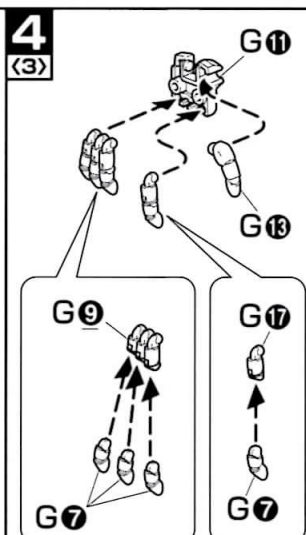
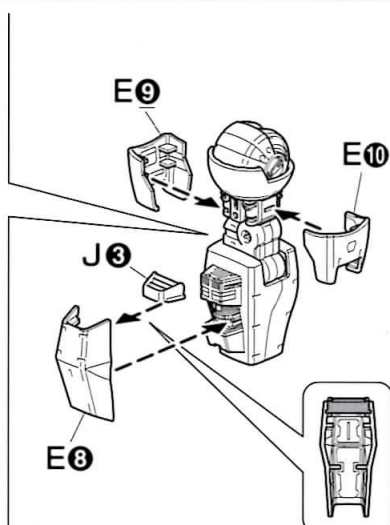
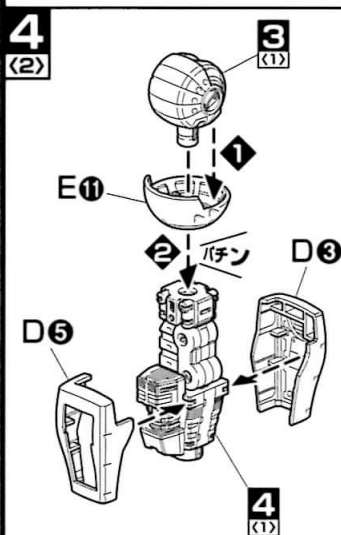
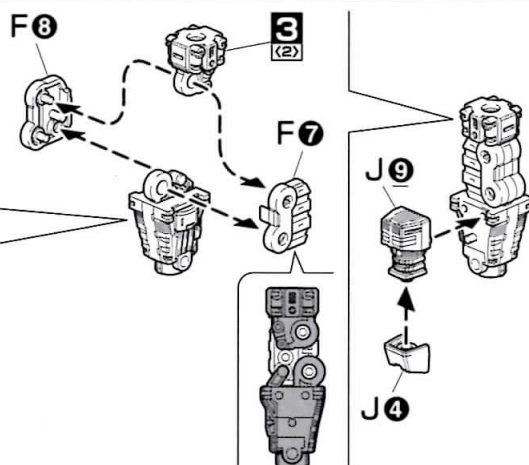
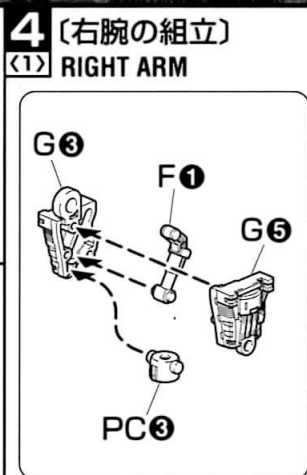
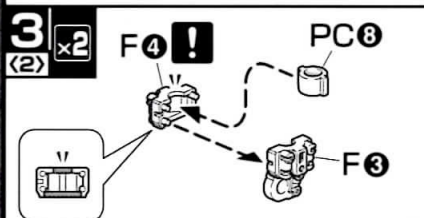
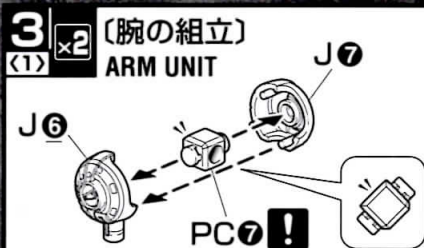
・組立2で使用するパーツ

・マーキングシール

3 4 5 6 ARM UNIT

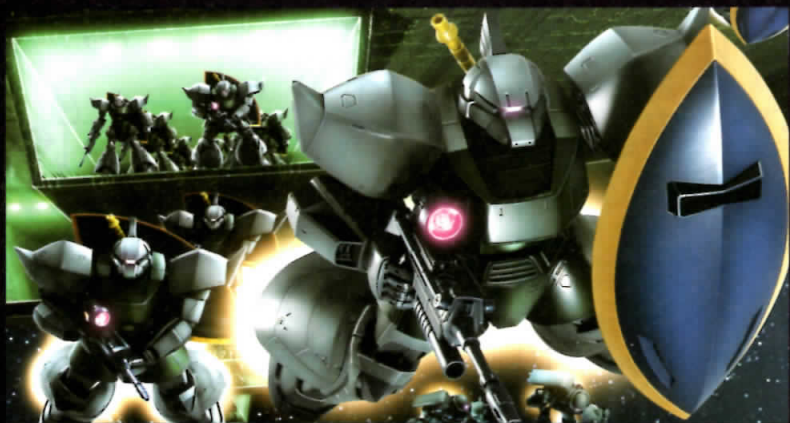
・組立3・4・5・6で使用するパーツ

・ビス

∴組立図中の記号説明

3 〈1〉 ×2 〔腕の組立〕
ARM UNIT
J❼
J❻
PC❼ !
3 〈2〉 ×2
F❹ !
PC❽
F❸
4 〈1〉 〔右腕の組立〕
RIGHT ARM
G❸
F❶
G❺
PC❸
F❽
3 〈2〉
F❼
J❾
J❹
4 〈2〉
3 〈1〉
E⓫
❶
❷ パチン
D❸
D❺
4 〈1〉
E❾
E❿
J❸
E❽
4 〈3〉
G⓫
G⓭
G❾
G⓱
G❼
G❼
F❻
❷
❶
D❼
4 〈4〉
4 〈2〉
E❼
4 〈3〉
5 〈1〉 〔左腕の組立〕
LEFT ARM
G❷
F❶
G❹
PC❸
3 〈2〉
F❼
F❽
5 〈2〉
5 〈1〉
J❾
J❹
3 〈1〉
❶
E⓫
❷ パチン
D❷
D❹
※組立図中の記号説明
×2 部品を数値の個数作ります
! 向きに注意して組み立てる

MS Tracks in U.C.0079

Battle of A Baoa Qu（ア・バオア・クーの戦い）

U.C.（宇宙世紀）0079年12月31日、一年戦争は最終局面を迎えようとしていた。公国軍が照射したソーラ・レイによって主力のレビル艦隊を喪失した連邦軍は、残存艦隊を再編成し宇宙要塞ア・バオア・クーへと進撃を開始。総帥ギレン・ザビの命令一下、ア・バオア・クーの港湾から、あるいは艦艇のハッチから、空母のカタパルトから出撃した無数のMSがそれを迎撃する。ザクが、リック・ドムが、そしてゲルググが、要塞の周囲を埋め尽くさんばかりに展開する。「ククク……圧倒的じゃないか、我が軍は」キシリアのグワジンが入港し、入れ替わるようにジオングが出撃する。グラナダから出撃してきた艦の数が合わないことをいぶかしみながらも、ギレンは臨機応変に命令をくだす。戦況はさらに熾烈を極め、無数の光芒が閃いては消えていった。新たに出現した連邦艦隊への対処を済ませ、戦況が有利に展開している事を確認したキシリアは、ギレンの傍らに歩み寄り、銃口を後頭部に押し当てながら父デギンへの仕打ちを糾す。「冗談はよせ…」「意外と…兄上も甘いようで」キシリアはギレンを父殺しの咎で自ら裁き、混乱に乗じてア・バオア・クーの司令部を掌握する。ところが戦況は一転し、連邦軍は傲然と攻め寄せる。「しかし、ゲルググ、ドムの動きが目立たないのはどういう訳だ?」「はっ、学徒動員のパイロットが多いようで……」機転を利かせて補佐に付いたトワニングは状況を奏上するが、キシリアは冷徹に現状を見極めていた。連邦軍は続々とア・バオア・クーに上陸し始め、ジオングの撃沈を確認したキシリアはトワニングを呼んで耳打ちする。「私の脱出15分後にここを降伏させるがいい」「しかし今となっては脱出こそ至難の技かと……」すでに戦闘はア・バオア・クー内で展開していた。ドロス、ドロワの両空母はすでに喪われ、ア・バオア・クーは今まさに陥落しようとしていた。ゲルググやザクだった鉄塊が、坑道のあちこちで爆煙に身悶えていた……。

PAINTING〔塗装〕

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0 指定色

部位	配合
腕、脚などの塗装色	ニュートラルグレー（80%）+ホワイト（15%）+グリーン（5%）+ブラウン（少量）
胴などの塗装色	グリーン（70%）+ホワイト（15%）+ブラック（10%）+ブラウン（5%）
つま先などの塗装色	ミッドナイトブルー（100%）
シールド表の塗装色	インディブルー（45%）+ホワイト（30%）+レッド（15%）+ブラック（10%）
シールド裏などの塗装色	インディブルー（40%）+ホワイト（25%）+ブラック（25%）+レッド（10%）
シールド フチの塗装色	イエロー（45%）+ホワイト（30%）+ウッドブラウン（25%）
ナギナタのグリップ部の塗装色	イエロー（90%）+カーキグリーン（5%）+ブラウン（5%）
コクピットハッチの塗装色	ニュートラルグレー（55%）+イエローグリーン（30%）+デイトナグリーン（10%）+ホワイト（5%）
モノアイなどの塗装色	蛍光ピンク（100%）
内部メカの塗装色（ABSパーツ以外）	ニュートラルグレー（90%）+ブラック（10%）

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

パイロット

部位	配合
パイロット本体の塗装色	ホワイト（55%）+イエローグリーン（35%）+ブラック（10%）
ヘルメットなどの塗装色	ホワイト（90%）+イエローグリーン（5%）+ブラック（5%）
バイザーの塗装色	スカイブルー（100%）
ヘルメット額部の塗装色	モンザレッド（100%）
ランドセルの塗装色	ミディアムブルー（100%）

パイロットB

パイロットA

ワンポイントステップ ～One point step～

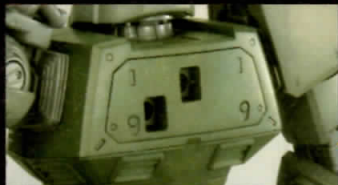
スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用（別売り）などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。

【before】

【after】

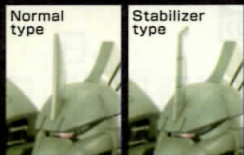
MS-14A GELGOOG MECHANISM

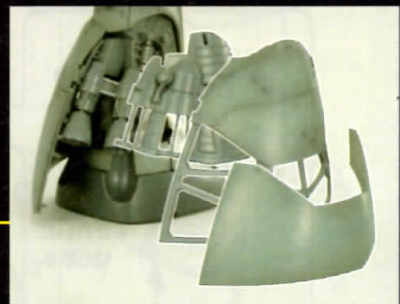
ゲルググの開発にあたってはザクの設計思想を受け継いでおり、量産型と言えどもそのスペックは先行型とほぼ変わりはなく非常に高い完成度の機体となっている。

▲ボディ背面をフラット化することで、オプション装備の換装を容易にしている。

▲腰部スカート・アーマーに配されたスラスターは、大気圏内での運用も考慮に入れハイブリット化が図られている。

▶06R系の機動力を向上させたスラスター・ユニットは、空間戦闘能力の大幅アップを実現している。

MODEL NUMBER : MS-14A
Height : 19.2m
Weight : 42.1t
Full weight : 73.3t
Generator output : 1,440kw
Armor materials : super hard steel alloy

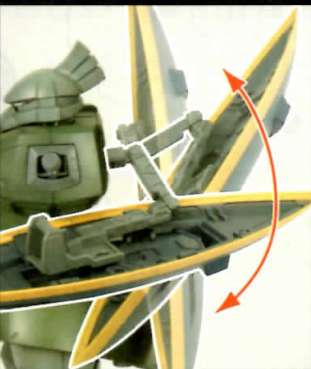
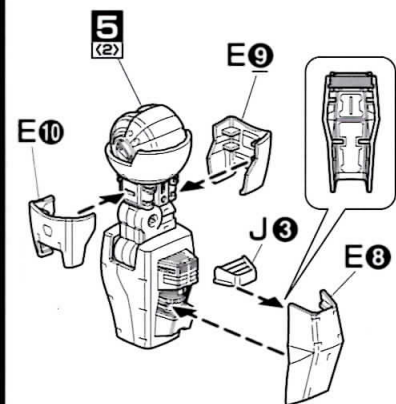
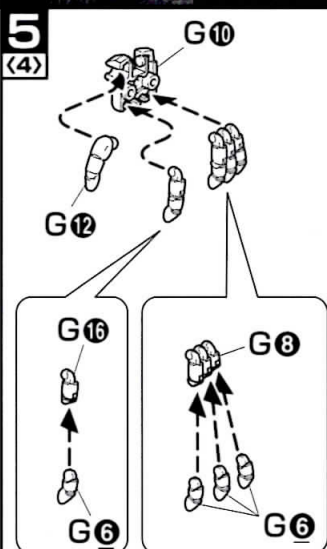
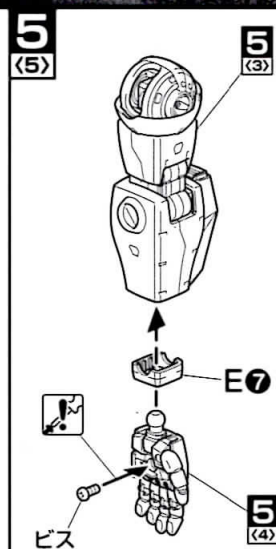
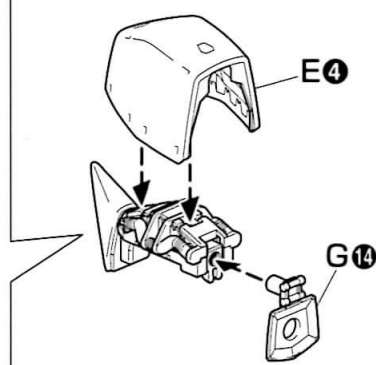
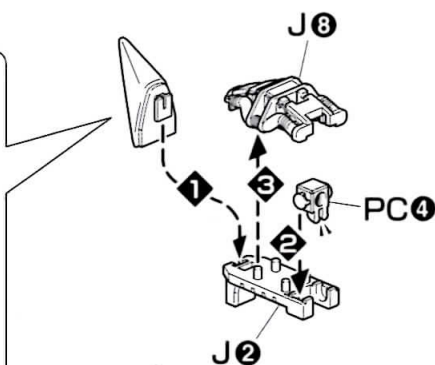
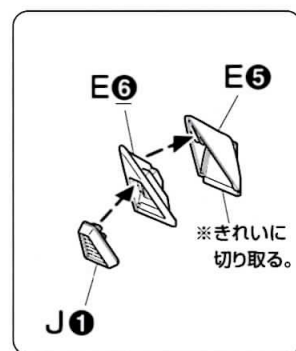
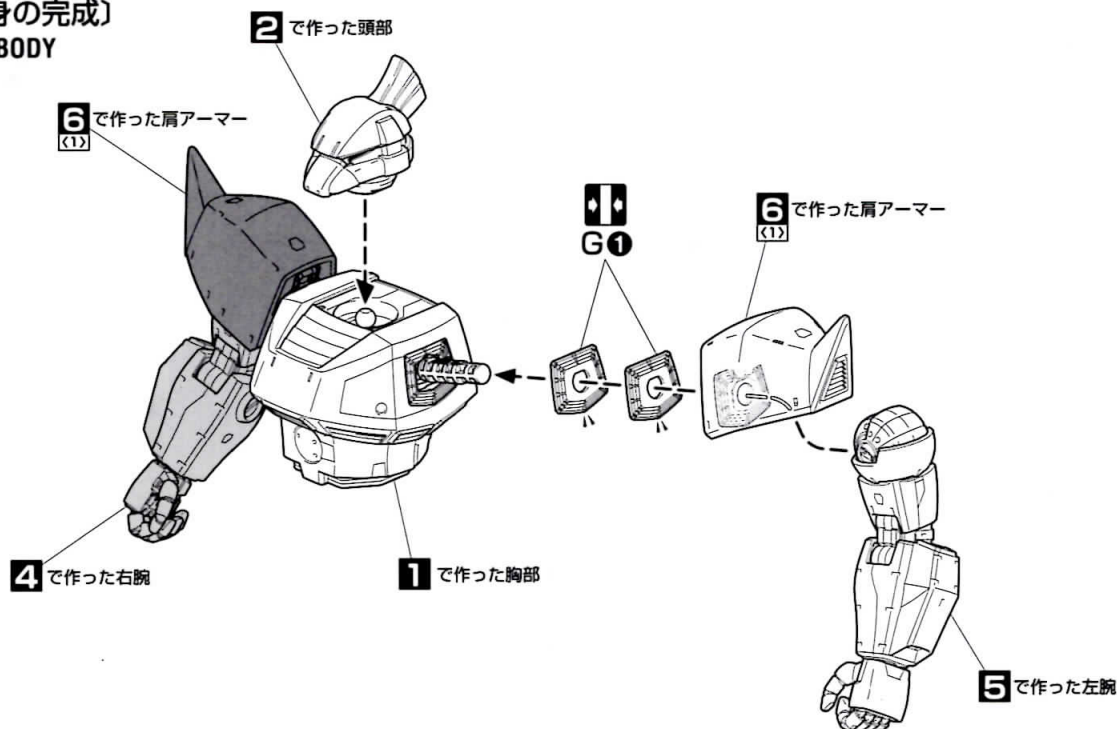
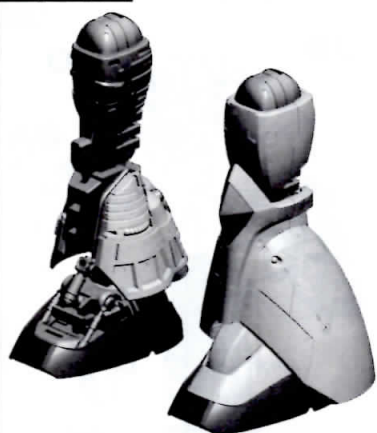
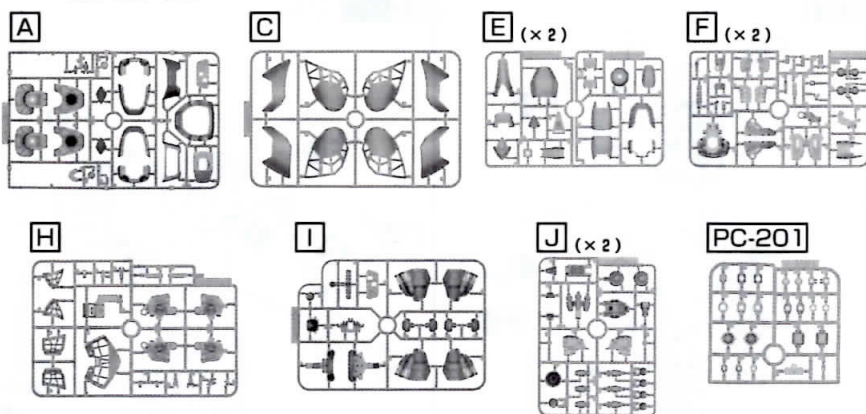
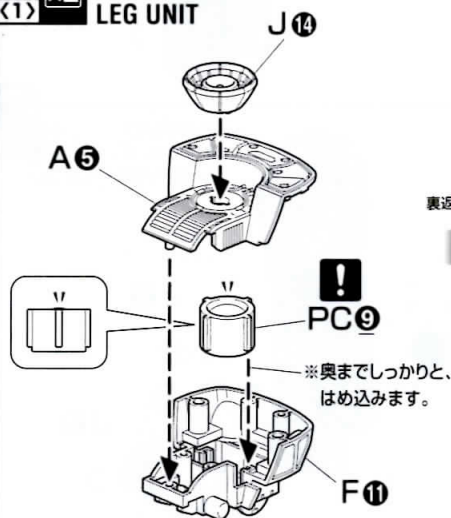
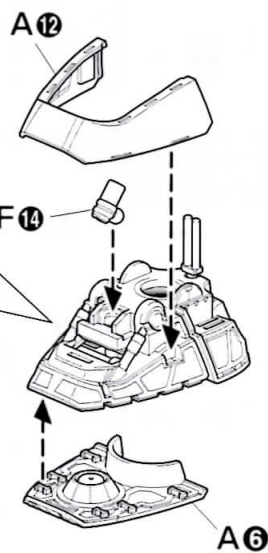
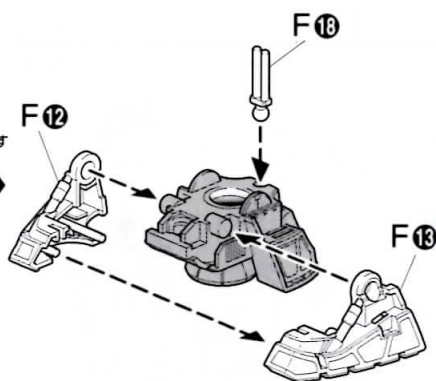
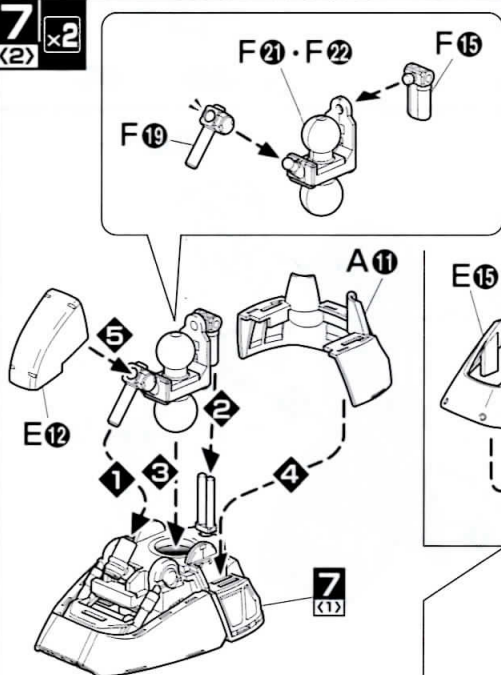
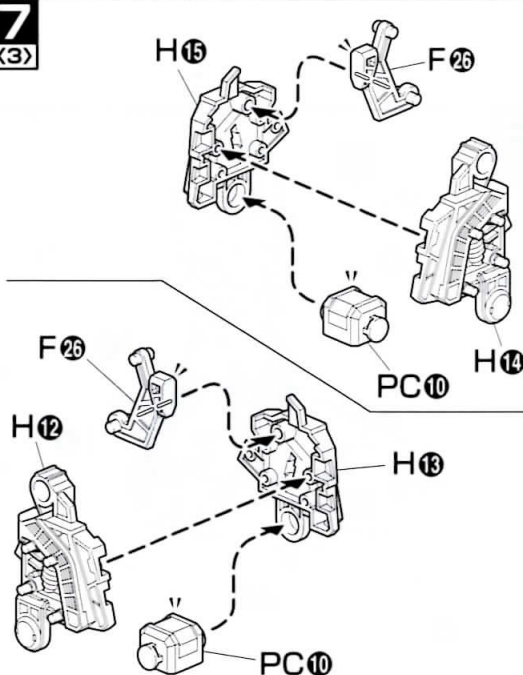
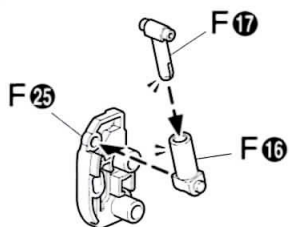
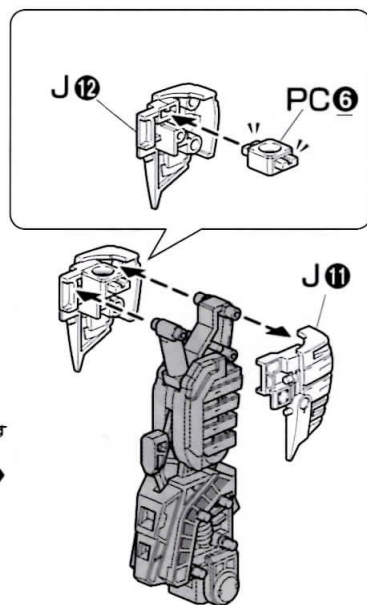
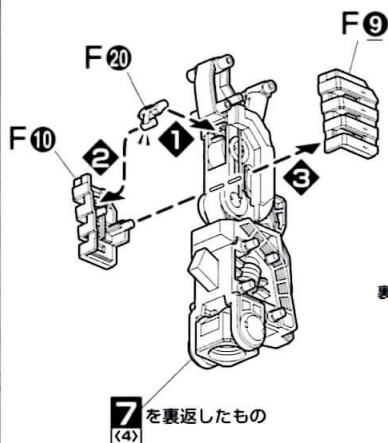
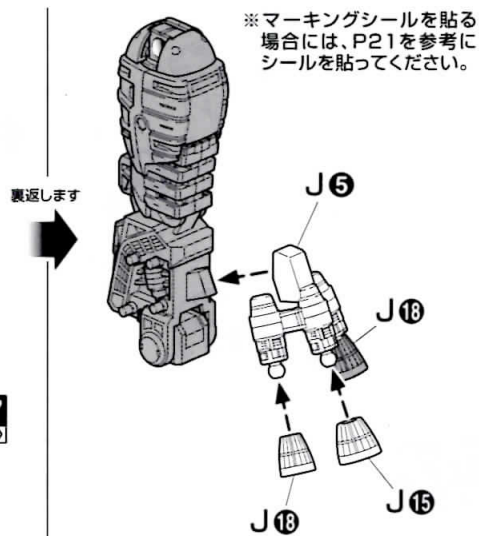
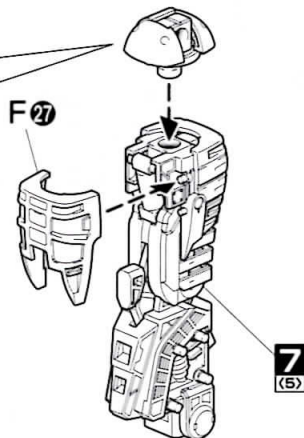
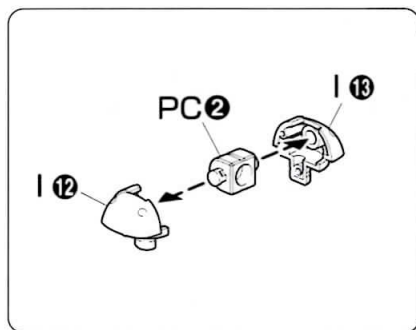
▶指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。

▶アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるよう設計されている。

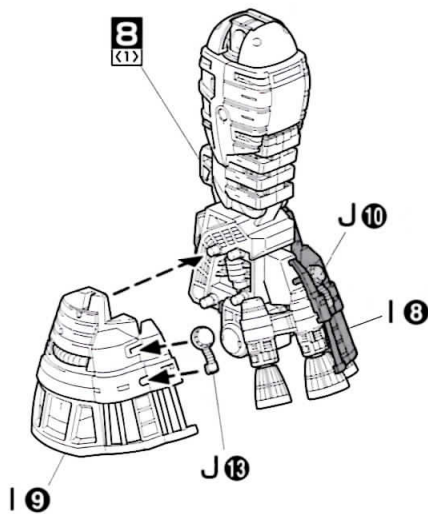
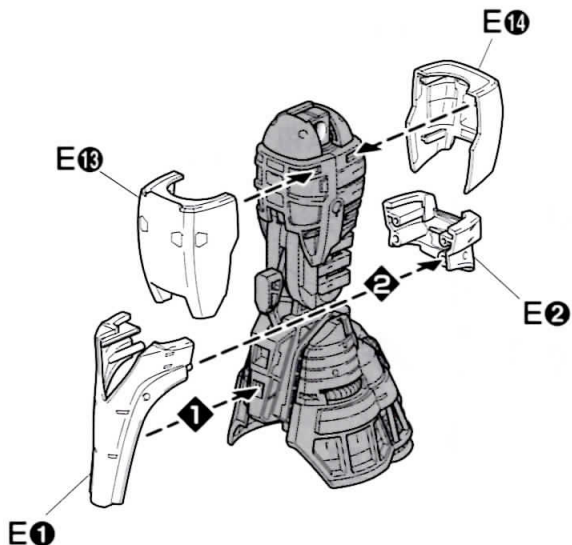
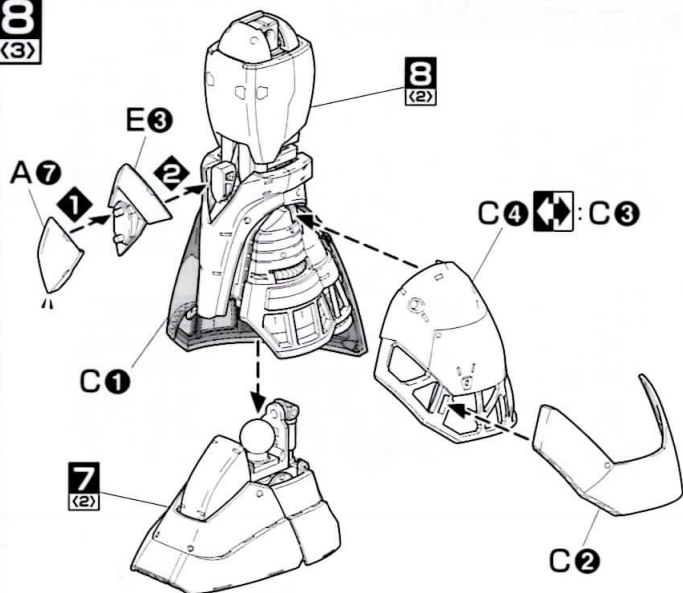
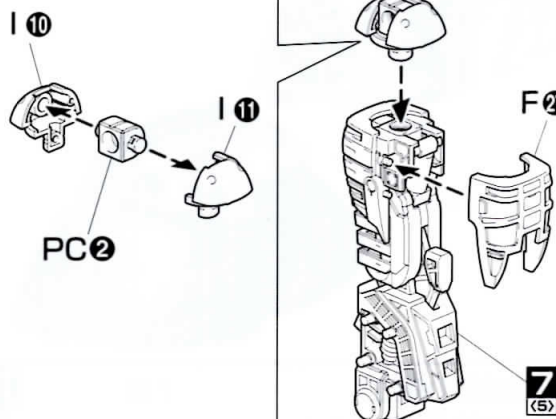
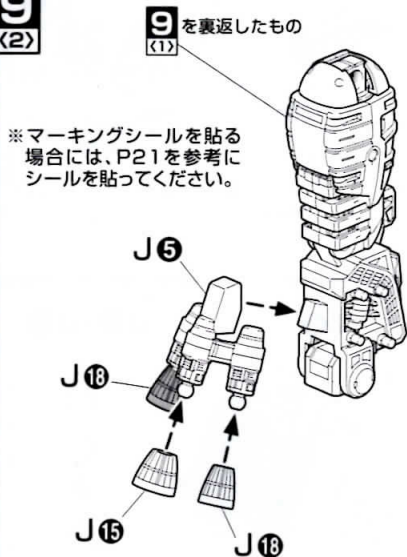
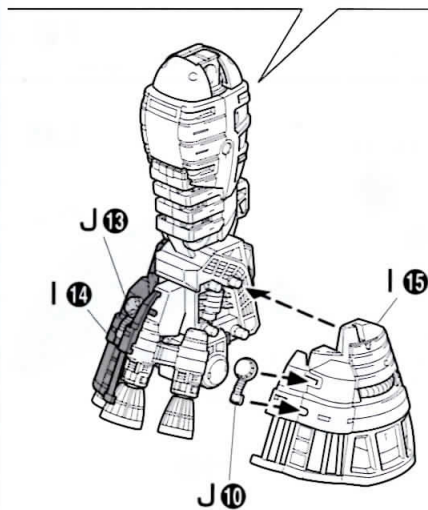
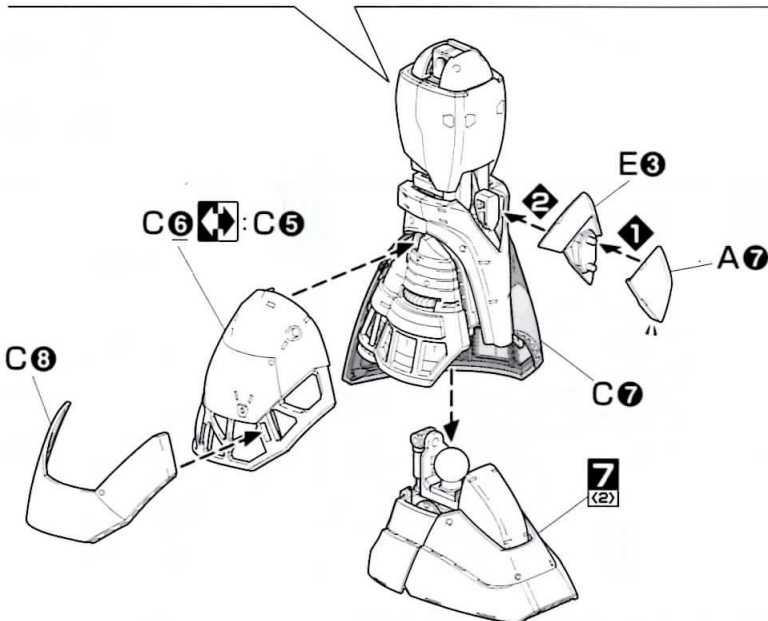
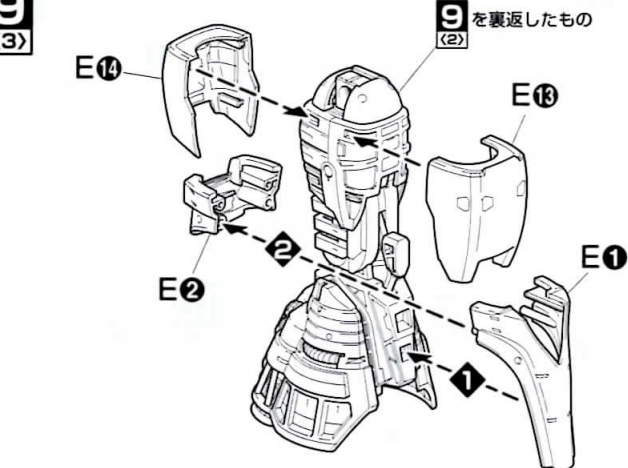
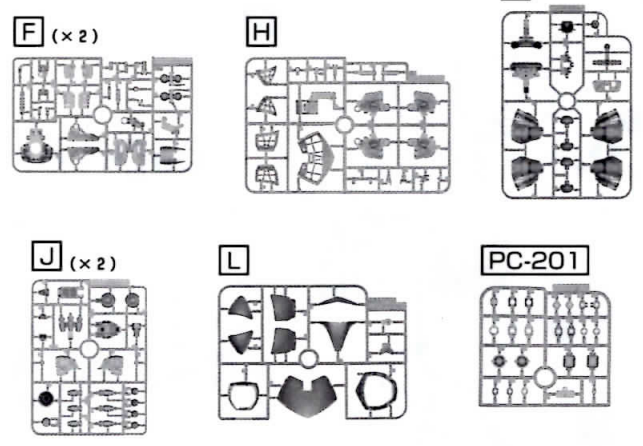
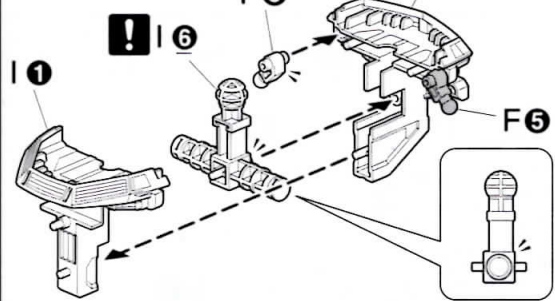
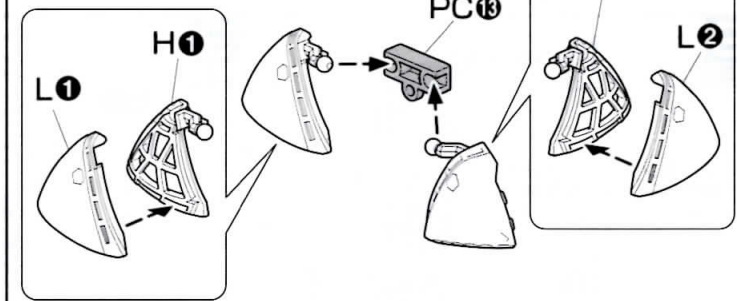
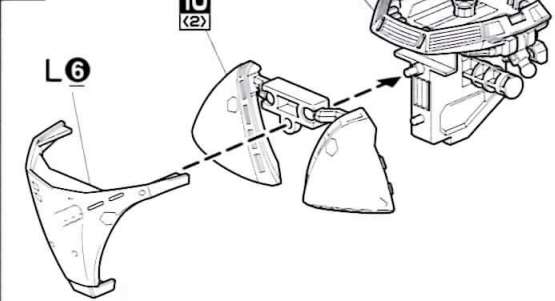
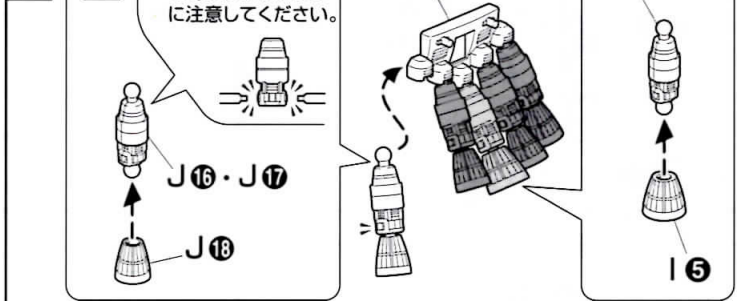
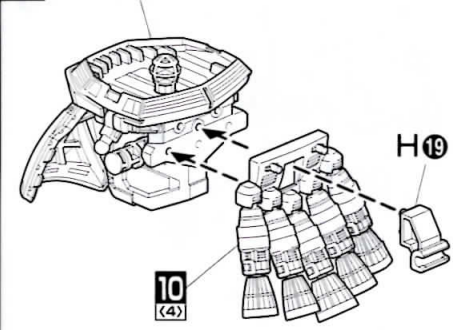
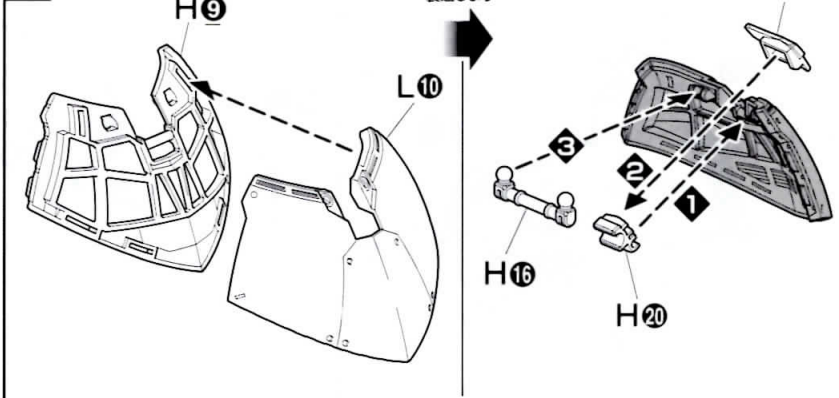
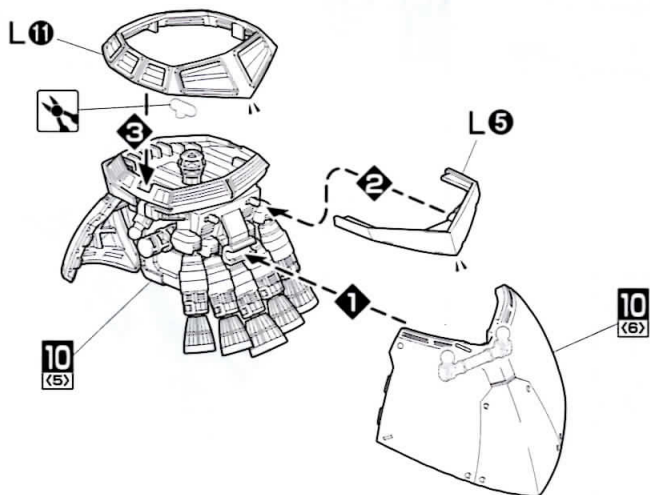
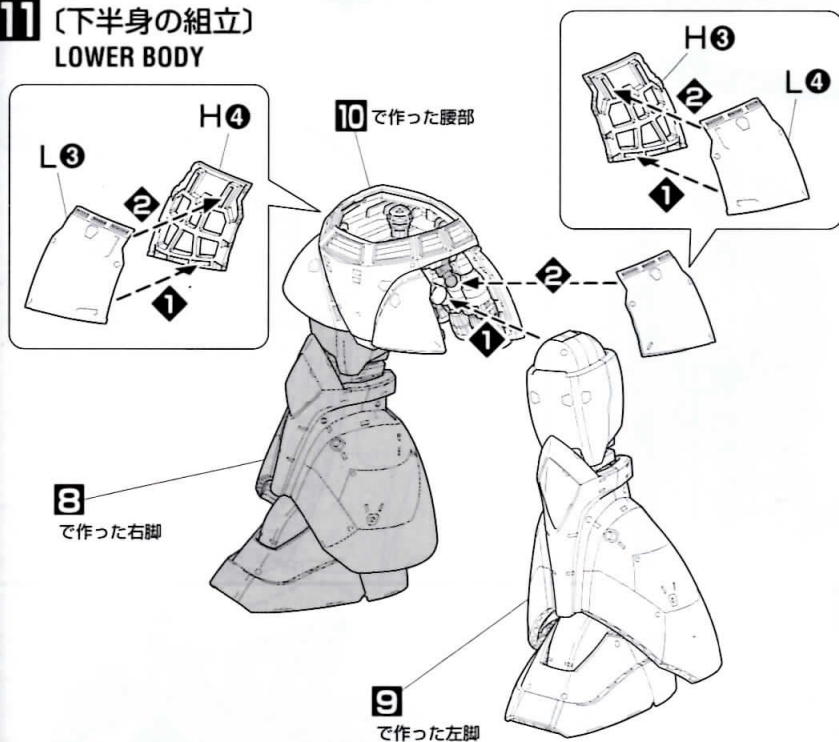
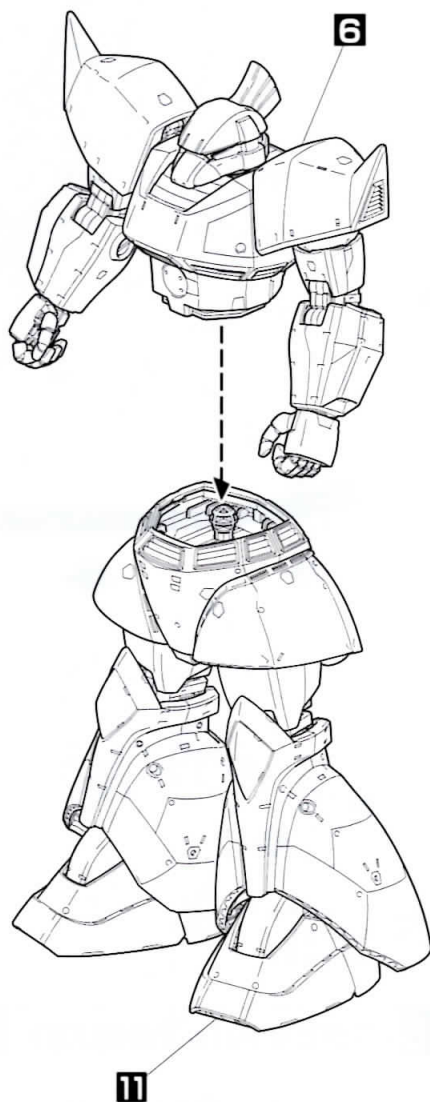
▶膝アーマー部は、インナーフレームに連動したスライド機構が組み込まれ、スムーズな可動が実現されている。

▲モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により汎用性、メンテナンス性に優れ、多重構造による装甲の強化が図られている。

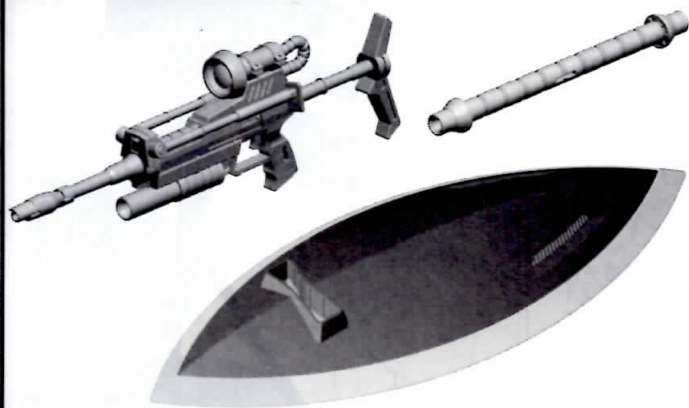
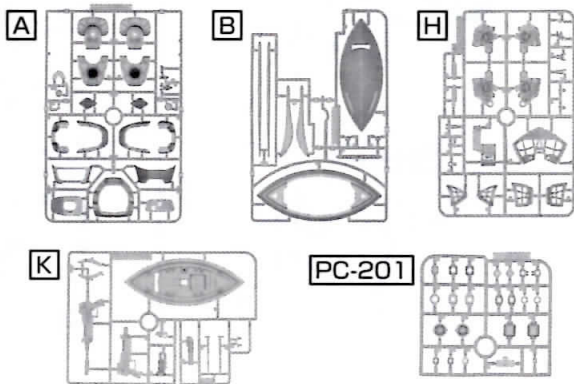
Weapons

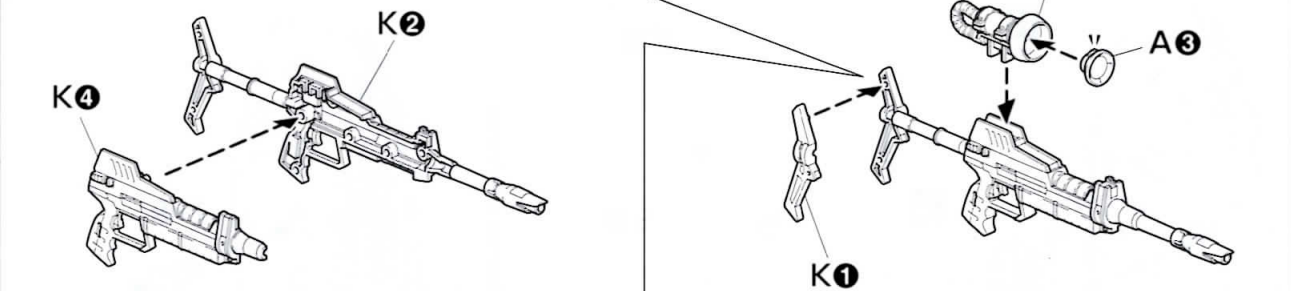
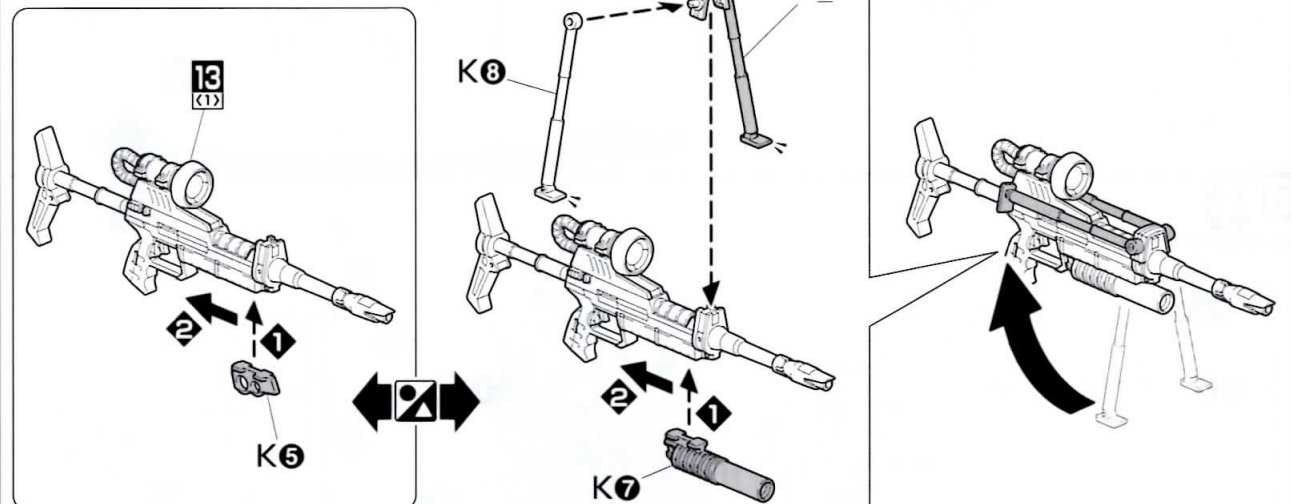
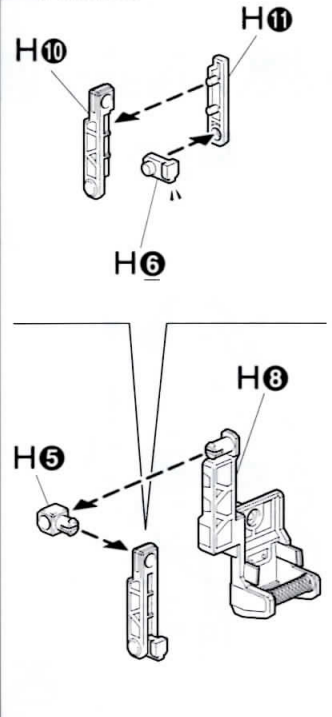
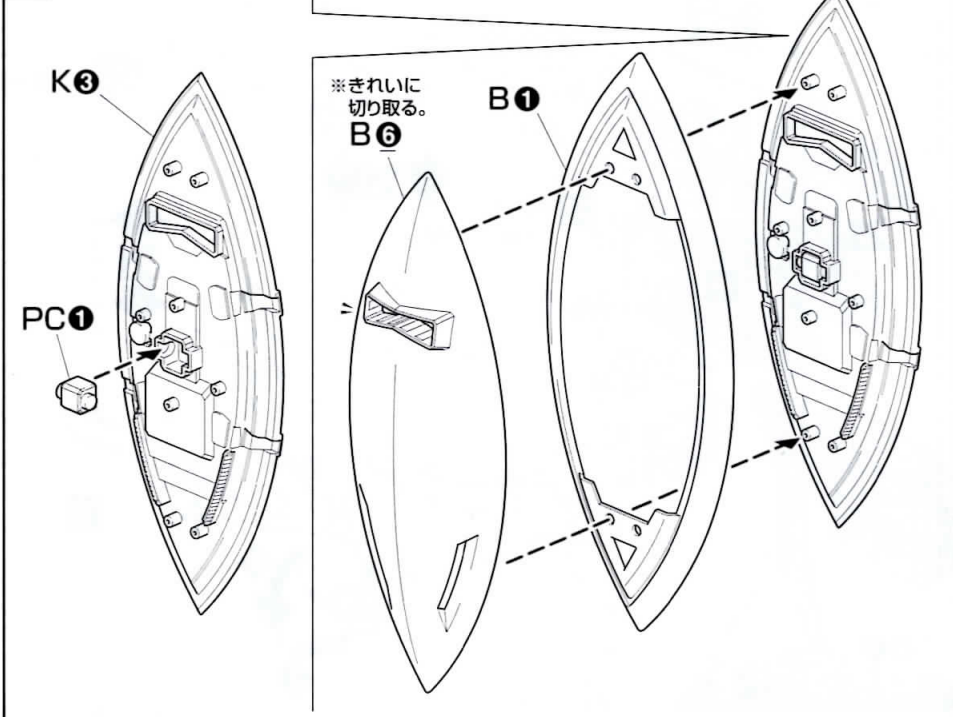
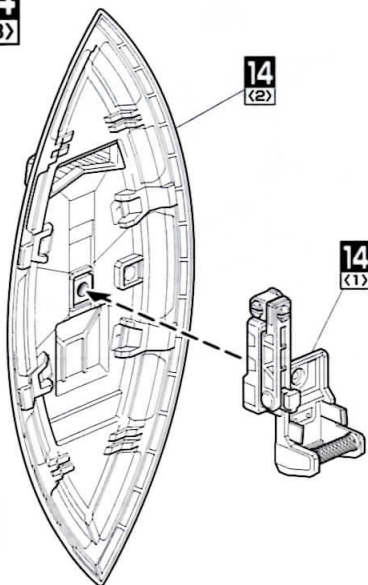
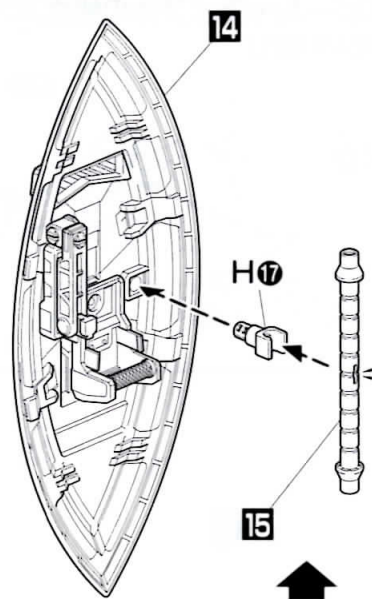
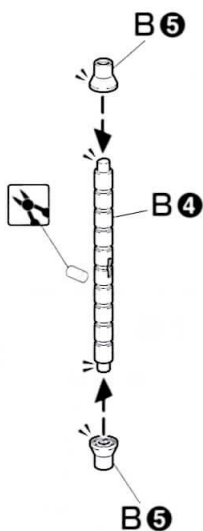
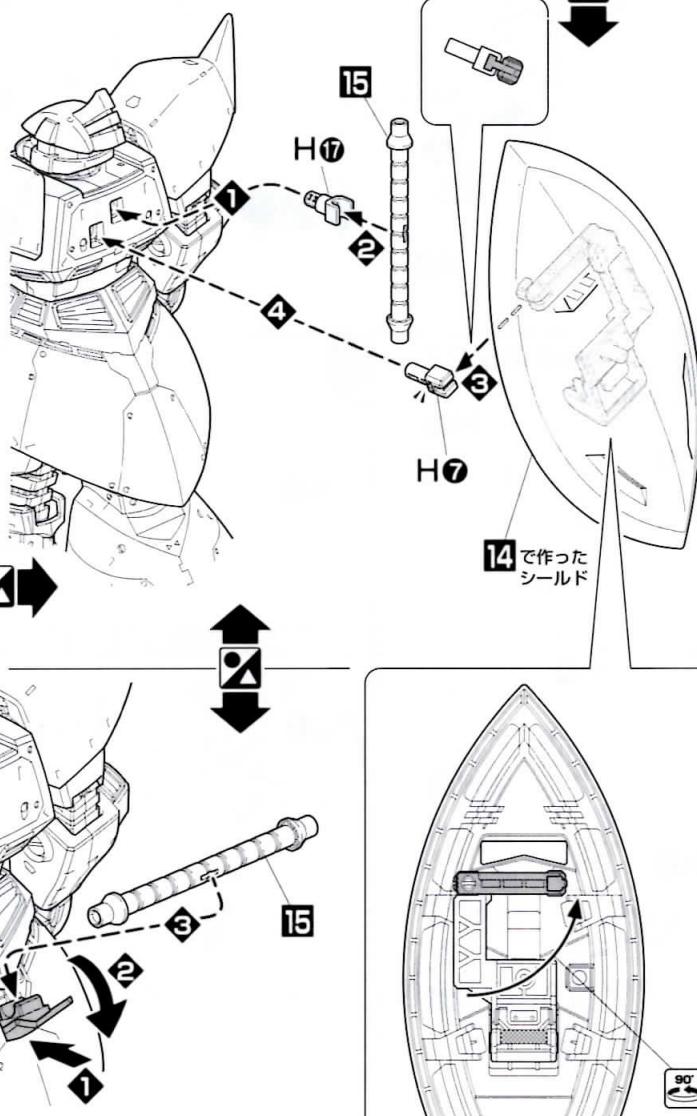
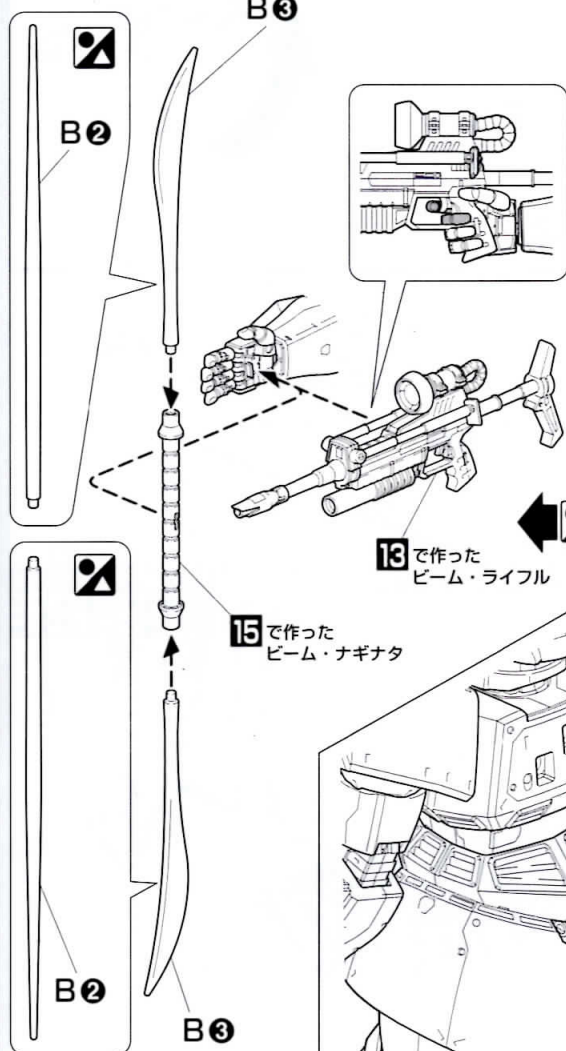
MS-14A GELGOOG ... ent

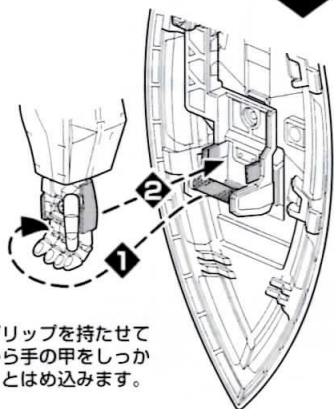
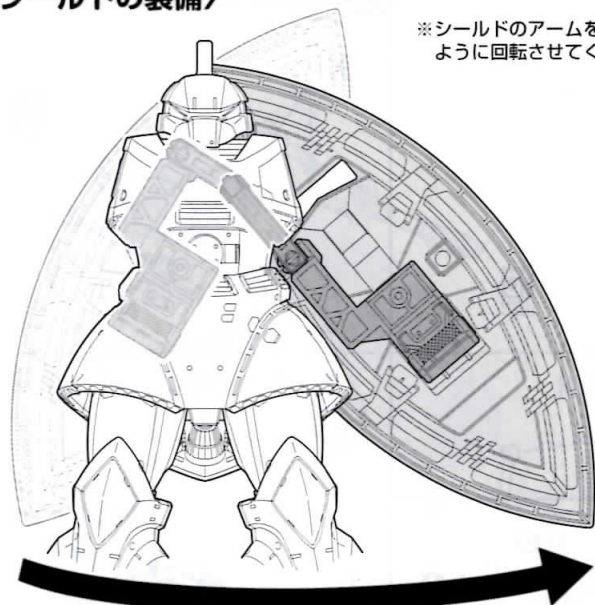
▲ビーム・ナギナタ、ビーム・ライフルはそれぞれソードタイプ、グレネードタイプに差し換えによる選択が可能。

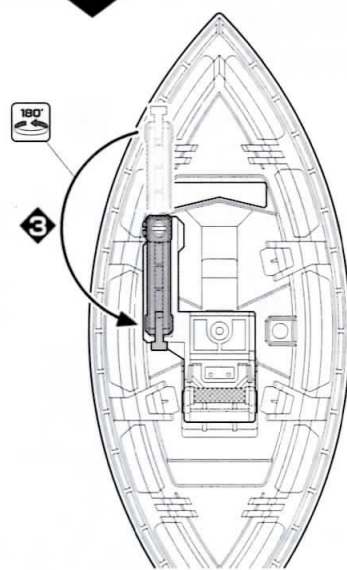
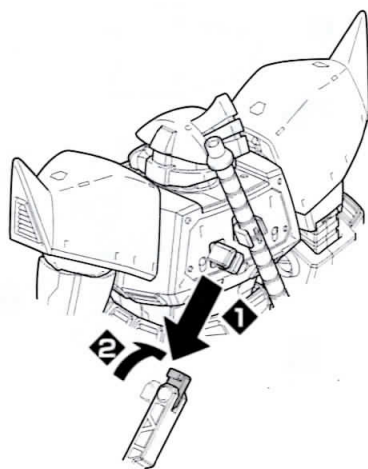
▲ビーム・ナギナタは機体各部、シールド裏面のウエポンラッチにマウントが可能。

▲機体背面からマウントアームが展開し、前面にスライドすることにより"引き出し"のアクションを実現。

5 〈3〉
5 〈2〉
E⑨
E⑩
J③
E⑧
5 〈4〉
G⑩
G⑫
G⑯
G⑥
G⑧
G⑥
F⑥
D⑥
5 〈5〉
5 〈3〉
E⑦
ビス
5 〈4〉
6 〈1〉 ×2
〔肩アーマーの組立〕
SHOULDER ARMOR
E⑥
E⑤
※きれいに
切り取る。
J①
J⑧
PC④
J②
E④
G⑭
6 〈2〉
〔上半身の完成〕
UPPER BODY
2 で作った頭部
6〈1〉 で作った肩アーマー
G①
6〈1〉 で作った肩アーマー
4 で作った右腕
1 で作った胸部
5 で作った左腕
※組立図中の
記号説明
×2 部品を数値の個数作ります
ビスの締めすぎに注意
両側に同じパーツを取りつける

789 LEG UNIT
・組立7・8・9で使用するパーツ
A
C
E (×2)
F (×2)
H
I
J (×2)
PC-201
7〈1〉 ×2 〔脚部の組立〕
LEG UNIT
J⑭
A⑤
PC⑨
※奥までしっかりと、
はめ込みます。
F⑪
裏返します
F⑫
F⑱
F⑬
A⑫
F⑭
A⑥
7〈2〉 ×2
F㉑・F㉒
F⑮
F⑲
A⑪
E⑫
7〈1〉
E⑮
E⑯
7〈3〉
H⑮
F㉖
H⑭
PC⑩
F㉖
H⑫
H⑬
PC⑩
∴組立図中の
記号説明
×2 部品を数値の
個数作ります
! 向きに注意して
組み立てる

7 〈4〉 ×2
F⑰
F㉕
F⑯
F㉓
F㉔
7 〈3〉
7 〈5〉 ×2
F⑳
F⑩
F⑨
7 〈4〉 を裏返したもの
裏返します
J⑫
PC⑥
J⑪
8 〈1〉 〔右脚の組立〕
RIGHT LEG
PC❷
I⑬
I⑫
F㉗
7 〈5〉
裏返します
※マーキングシールを貼る場合には、P21を参考にシールを貼ってください。
J⑤
J⑱
J⑱
J⑮
8 〈2〉
8 〈1〉
J⑩
I⑧
J⑬
I⑨
裏返します
E⑭
E⑬
E②
E①
∴組立図中の記号説明
×2 部品を数値の個数作ります

8
〈3〉
8
〈2〉
E❸
A❼
❶
❷
C❹ : C❸
C❶
7
〈2〉
C❷
9 〔左脚の組立〕
〈1〉 LEFT LEG
I ❿
I ⓫
PC❷
F㉗
7
〈5〉
9
〈2〉
9 を裏返したもの
〈1〉
※マーキングシールを貼る
場合には、P21を参考に
シールを貼ってください。
J❺
J⓲
J⓯
J⓲
J⓭
I⓮
I⓯
J❿
9
〈3〉
9 を裏返したもの
〈2〉
E⓮
E⓭
E❷
E❶
E❸
C❻ : C❺
A❼
C❽
C❼
7
〈2〉
※組立図中の
記号説明
反対側に取り
付けるパーツ

10 11 WAIST UNIT
・組立10・11で使用するパーツ
F (×2)
H
I
J (×2)
L
PC-201
10 〈1〉 〔腰部の組立〕
WAIST UNIT
I❷
F❺
I❻
I❶
F❺
10 〈2〉
H❷
PC⓭
H❶
L❶
L❷
10 〈3〉
10 〈1〉
10 〈2〉
L❻
10 〈4〉
×4
※J⓰は、ディテールを切り取らないように注意してください。
I❹
J⓰・J⓱
J⓰・J⓱
J⓲
I❺
10 〈5〉
10 〈3〉 を裏返したもの
H⓳
10 〈4〉
※マーキングシールを貼る場合には、P21を参考にシールを貼ってください。
10 〈6〉
H❾
L❿
裏返します
L❽
❸
❷
❶
H⓰
H⓴
16
※組立図中の記号説明
×2 部品を数値の個数作ります
! 向きに注意して組み立てる

10 〈7〉

11 〔下半身の組立〕 LOWER BODY

12 〔完成〕 FINAL ASSEMBLE

※A❾は好きな所に飾ってください。

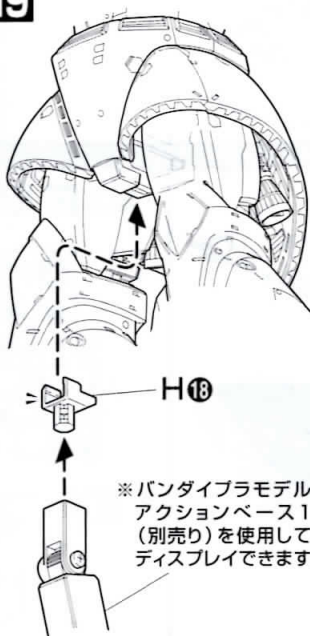
13 14 15 16 19 WEAPONS

・組立13・14・15・16・19で使用するパーツ

※組立図中の記号説明 切り取る部分

13 〔ビーム・ライフルの組立〕
〈1〉 BEAM RIFLE
K❷
K❹
K❻
A❸
K❶
13 〈2〉
13 〈1〉
K❺
K❿
K❾
K❽
K❼
14 〔シールドの組立〕
〈1〉 SHIELD
H⓫
H❿
H❻
H❽
H❺
14 〈2〉
K❸
※きれいに
切り取る。
B❻
B❶
PC❶
※組立図中の
記号説明
どちらかを選ん
で取りつける

17 〈1〉〈シールドの装備〉

※シールドのアームを図のように回転させてください。

※グリップを持たせてから手の甲をしっかりとはめ込みます。

17 〈2〉

18 〈コクピットハッチの開け方〉

※胸部がコクピットハッチにかぶっている場合は、胸部を上に上げてから開けてください。

19

※バンダイプラモデル アクションベース1（別売り）を使用してディスプレイできます。

※組立図中の記号説明 90° 数値に合わせて回転させます。

Seal
〈シール〉

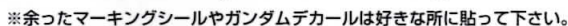
下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。
【例】㋐・・・マーキングシール　Ⓐ・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。

ジオン公国軍
汎用モビルスーツ
MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-14A GELGOOG